

院内感染対策サーベイランス運営委員会（第3回）
議事次第

○ 日時 平成21年12月 4日
15:00～17:00

○ 場所 厚生労働省 仮設第4会議室

○ 議題

1. 院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）の現況報告
参加医療機関数の推移
データ回収率
2. 事業運営に関して
一般向け公開情報
院内感染対策実施マニュアルの改訂
公開情報作成から承認の流れについて
3. 精度管理について
SSI・ICU部門（2008年の実績）
NICU部門の体重区分について
4. その他

（配付資料）

- 資料1-1 参加医療機関数の推移
- 資料1-2 データ回収率推移
- 資料2-1 公開情報（2007年NICU部門公開スプレッドシート）
- 資料2-2A 公開情報（2006年年報全入院患者部門訂正版）
- 資料2-2B 公開情報（2007年4～6月報全入院患者部門訂正版）
- 資料2-2C 全入院患者部門年間感染率・罹患率の計算方法
- 資料2-3A 院内感染対策サーベイランス実施マニュアルの改訂（新旧対照表）
- 資料2-3B 院内感染対策サーベイランス実施マニュアル（2008年11月版）

資料 2 - 4 統計法抜粋

資料 2 - 5 公開情報作成から承認までの流れ

資料 3 - 1 SSI、ICU 部門 精度管理のための問い合わせ基準と問い合わせ結果

資料 3 - 2 NICU 部門の体重別分類について (研究班回答)

参加医療機関数の推移(新システム移行後)

集計のタイミング		全国参加 医療機関数	検査部門	全入院 患者部門	手術部位 感染部門	集中治療 部門	新生児集中 治療部門
2008年7月	システム更新後	722	525	392	302	159	95
2008年1月	新規参加医療機関 追加後	853	612	476	357	184	107
2008年10月	検査・全入院患者部門 脱退・登録抹消後	783	514	384	347	178	103
2009年2月	新規参加医療機関 追加後	865	574	433	394	203	112
2009年10月	NICU部門以外の4部門 脱退・登録抹消後	817	564	427	301	141	111

院内感染対策サーベイランス データ回収率

2007年下半期

部門	医療機関数	データ提出医療機関数(%)					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
検査	525	363 (69.1)	387 (73.7)	392 (74.7)	398 (75.8)	399 (76.0)	404 (77.0)
全入院 患者	392	270 (68.9)	300 (76.5)	304 (77.6)	300 (76.5)	298 (76.0)	302 (77.0)
SSI*	302			181 (59.9)			
ICU*	159			85 (53.5)			
NICU**	95			40 (42.1)			

* データの提出は半期ごと

** データ提出は年一回

院内感染対策サーベイランス データ回収率

2008 年上半期

部門	参加 医療機関数	データ提出医療機関数(%)					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月
検査	612 (10月～514)	480 (78.4)	483 (78.9)	492 (80.4)	495 (80.9)	499 (81.5)	502 (82.0)
全入院 患者	476 (10月～384)	355 (74.6)	357 (75.0)	358 (75.2)	362 (76.1)	362 (76.1)	366 (76.9)
SSI*	357 (10月～347)			253 (70.9)			
ICU*	184 (10月～178)			109 (59.2)			
NICU**	103			54 (52.4)			

2008 年下半期

部門	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検査	507 (82.8)	507 (82.8)	506 (82.7)	505 (98.2)	505 (98.2)	495 (96.3)
全入院 患者	371 (77.9)	370 (77.7)	366 (76.9)	371 (96.6)	365 (95.1)	363 (94.5)
SSI*			253 (72.9)			
ICU*			108 (60.7)			
NICU**						

* データの提出は半期ごと

** データ提出は年一回

NICU 部門

表 1 入院患者数と体重別患児数

体重別 区分	感染症 発症 患児数	体重群別 感染症発症患児数 ÷感染症発症患者 数合計	入院 患児数	体重群別 入院患児数 ÷入院患児 数合計	感染症発生率
～999g	111	32.08	335	5.90	33.13
1000g～ 1499g	36	10.40	456	8.03	7.89
1500g～	199	57.51	4887	86.07	4.07
合計	346	100.00	5678	100.00	6.09

感染症発生率 = 体重群別感染症発症患児数 ÷ 体重群別入院患児数 × 100)

表 2 菌種別体重群別感染症発症患児数

菌種別	～999g	1000g～ 1499g	1500g～	菌種別 合計
MRSA	27	10	41	78
MSSA	9	4	13	26
CNS	4	1	12	17
緑膿菌	6	1	10	17
カンジダ	10	2	3	15
その他	35	10	50	95
菌不明	20	8	70	98
合計	111	36	199	346

表 3 感染症別体重群別感染症発症患児数

感染症別	～999g	1000g～1499g	1500g～	感染症別合計
敗血症	21	5	30	56
肺炎	31	10	45	86
髄膜炎	4	1	5	10
腸炎	10	2	4	16
皮膚炎	3	2	31	36
その他	42	16	84	142
合計	111	36	199	346

表4 感染症別菌種別体重群別感染症発症患児数

感染症別	体重別	MRSA	MSSA	CNS	緑膿菌	カンジダ	その他	菌不明	横計
敗血症	～999g	3	0	1	0	6	10	1	21
	1000g～1499g	1	0	0	0	2	2	0	5
	1500g～	1	1	4	2	0	16	6	30
	合計	5	1	5	2	8	28	7	56
肺炎	～999g	14	4	0	4	1	7	1	31
	1000g～1499g	4	1	0	1	0	3	1	10
	1500g～	3	2	2	5	0	8	25	45
	合計	21	7	2	10	1	18	27	86
髄膜炎	～999g	0	1	0	0	1	2	0	4
	1000g～1499g	0	0	0	0	0	1	0	1
	1500g～	0	0	1	0	0	4	0	5
	合計	0	1	1	0	1	7	0	10
腸炎	～999g	1	0	0	0	0	5	4	10
	1000g～1499g	0	1	0	0	0	0	1	2
	1500g～	0	1	0	0	0	1	2	4
	合計	1	2	0	0	0	6	7	16
皮膚炎	～999g	1	0	0	1	0	1	0	3
	1000g～1499g	1	0	1	0	0	0	0	2
	1500g～	16	6	3	0	3	0	3	31
	合計	18	6	4	1	3	1	3	36
その他	～999g	8	4	3	1	2	10	14	42
	1000g～1499g	4	2	0	0	0	4	6	16
	1500g～	21	3	2	3	0	21	34	84
	合計	33	9	5	4	2	35	54	142
縦計	～999g	27	9	4	6	10	35	20	111
	1000g～1499g	10	4	1	1	2	10	8	36
	1500g～	41	13	12	10	3	50	70	199
	合計	78	26	17	17	15	95	98	346

【全入院患者サーベイランスの目的】

院内感染対策サーベイランスの一環として、全国の200床以上の病院のうち本サーベイランスの趣旨に賛同して参加を希望した医療機関の協力を得て、院内感染対策に問題となりうる薬剤耐性菌による感染症患者の発生動向等のデータの提供を受け、患者の基礎疾患その他の背景因子、関連因子等を解析した結果を参加医療機関に還元し、また解析結果の要点を広く一般に公開することにより、全国の医療機関において実施されている院内感染対策を支援することを目的とする。

調査対象菌種としてMRSA、PRSP、メタロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌、多剤耐性緑膿菌、VRE、VRSA、その他危険と思われる薬剤耐性菌を選び、これらの耐性菌による感染患者情報を収集し、データの集計・解析を行い、季報・年報として要点を公表する。年報としては以下の内容を公表する。

【解説】

今回の年報(2006年1~12月)では、調査参加施設数は65施設で、調査対象となった総入院患者数は496,655名であった。そのなかで薬剤耐性菌による感染症を引き起こした患者数は3,202名であった。薬剤耐性菌別では、MRSA感染症患者は2,950名で、MRSAと多剤耐性緑膿菌との混合感染症患者は12名、MRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌との混合感染症患者は2名であった。PRSP感染症患者は110名、多剤耐性緑膿菌感染症患者は39名、メタロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌感染症患者は21名であった。VRE、VRSA感染症の報告はなかった。感染症患者数を総入院患者数で除した感染率(%)は6.45%(前年*.**%)であった。新規感染者数を総入院患者数から継続感染患者数を引いた数で除した罹患率(%)は6.29%(前年*.**%)であった。耐性菌別の感染率、罹患率はそれぞれMRSA感染症では5.94%(前年*.**%)、5.80%(前年*.**%)、PRSP感染症では0.22%(前年*.**%)、0.22%(前年*.**%)、多剤耐性緑膿菌感染症では0.08%(前年*.**%)、0.07%(前年*.**%)であった。感染症患者の性別はMRSA感染症患者及びPRSP感染症患者ともに60%以上が男性であった。年齢別ではMRSA感染症患者の60%以上が70歳以上であったが、PRSP感染症では10歳未満が48.2%と低年齢層に多かった。

検出検体をみると、MRSA感染症の検体では呼吸器系が45.2%と最も多く、次いで血液・穿刺液系(13.1%)、消化器系(7.2%)の順であり、呼吸器系の中でも喀出痰が73.9%を占めていた。PRSP感染症の検体では呼吸器系が90.9%を占め、その内訳は喀出痰(54.05%)、咽頭粘液(35%)、鼻腔内(6.0%)の順であった。

薬剤耐性菌による感染症名の内訳は、MRSA感染症については肺炎が最も多く41.1%で、次いで菌血症(11.8%)、手術創感染(11.4%)、皮膚・軟部組織感染症(8.8%)の順であった。PRSP感染症については肺炎(54.5%)、肺炎以外の呼吸器感染(36.4%)、菌血症(5.5%)の順であった。

薬剤耐性菌による感染症患者全体の基礎疾患名の内訳は、悪性腫瘍が最も多く19.7%、次いで循環器系疾患(17.8%)、呼吸器系疾患(12.8%)、神経系疾患(10.3%)、消化器系疾患(8.7%)、内分泌代謝疾患(7.9%)の順であった。MRSA感染症患者でも同様の傾向であった。

診療科別内訳は感染症患者全体では内科系46.5%、外科系52.4%であり、MRSA感染症患者では、内科系44.5%、外科系54.3%であった。PRSP感染症患者では内科系が87.3%を占めた。

感染症患者の体温分布を見ると、MRSA感染症患者では37.1℃以上~38.9℃未満が51.5%と最も多く、39℃以上の21.7%を合わせて37.1℃以上が73.3%で、37℃以下は13.9%であった。PRSP感染症患者では37.1℃以上~38.9℃未満が49.1%、39℃以上の29.1%と合わせると37.1℃以上が78.2%で、37℃以下が11.8%であった。白血球数分布ではMRSA感染症患者、PRSP患者とも10,001/μL以上が半数を占めた。CRP値分布ではMRSA感染症患者において10.1mg/dL以上は42.3%を占め、PRSP感染症患者では37.3%であった。

- 表1. サーベイランス参加施設の規模内訳
- 表2. 薬剤耐性菌別感染症及び罹患患者数の内訳
- 表3. 感染症及び罹患患者の性別内訳
- 表4. 感染症及び罹患患者の年齢別内訳
- 表5. 感染症及び罹患患者の検体内訳
- 表6. 感染症及び罹患患者の感染症名内訳
- 表7. 感染症及び罹患患者の基礎疾患名内訳
- 表8. 感染症及び罹患患者数の診療科内訳
- 表9. 感染症及び罹患患者の体温分布
- 表10. 感染症及び罹患患者の白血球数分布
- 表11. 感染症及び罹患患者のCRP値分布

なお、集計不能なデータを除いたため、表によって計が異なる場合があります。

表1. サーベイランス参加施設の規模内訳

病床数	～399	400～599	600～799	800～999	1000以上	計
参加施設数	23	27	12	2	1	65

参加施設数

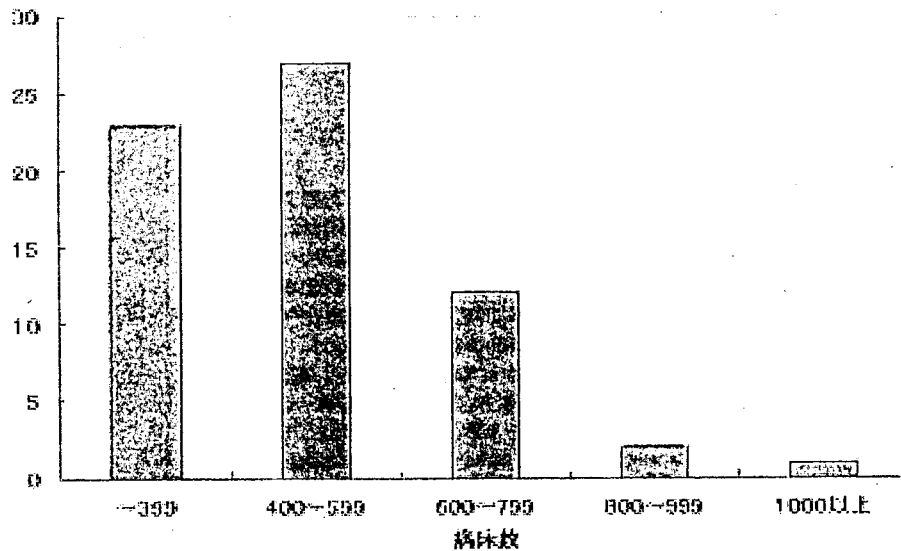


表2. 薬剤耐性菌別感染症および罹患患者数の内訳

薬剤耐性菌名	感染症患者数	罹患患者数	感染率(%)	罹患率(%)
MRSA	2,950	2,882	5.94	5.80
MRSA+多剤耐性緑膿菌	12	11	0.02	0.02
多剤耐性緑膿菌	39	35	0.08	0.07
PRSP (PISPも含む)	110	110	0.22	0.22
メロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌	21	21	0.04	0.04
VRE	0	0	0.00	0.00
VRSA	0	0	0.00	0.00
MRSA+メロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌	2	2	0.00	0.00
その他	68	61	0.14	0.12
感染患者数計	3,202	3,122	6.45	6.29
参加施設数	65			

総入院患者数 496,655名

感染症患者数：調査対象とした薬剤耐性菌による感染症患者の数

総入院患者数＝前年からの繰越患者数＋新入院患者数

新規感染症患者数＝新規の感染症患者の数（＝罹患患者数）

継続感染症患者数＝前年から継続している感染症患者の数

感染率(%)＝感染症患者数÷総入院患者数×1000

罹患率(%)＝新規感染症患者数÷(総入院患者数－継続感染症患者数)×1000

注(1)：総入院患者数、感染症患者数、罹患患者数は毎月の報告数を単純に加えたものです。

感染率、罹患率はこれらに基づいて算出しており、12ヶ月の平均を示しています。

注(2)：参加施設数が月によって異なります。

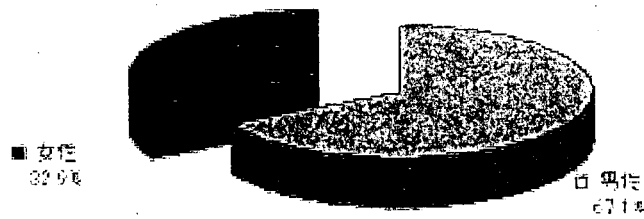
表 3. 感染症及び罹患患者の性別内訳

	感染症患者数	罹患患者数	MRSA感染症患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染症患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染症患者数	その他の罹患患者数
男性	2,150 (67.1)	2,088 (66.9)	1,988 (67.4)	1,937 (67.2)	69 (62.7)	69 (62.7)	93 (65.5)	82 (63.1)
女性	1,052 (32.9)	1,034 (33.1)	962 (32.6)	945 (32.8)	41 (37.3)	41 (37.3)	49 (34.5)	48 (36.9)
計	3,202 (100.0)	3,122 (100.0)	2,950 (100.0)	2,882 (100.0)	110 (100.0)	110 (100.0)	142 (100.0)	130 (100.0)

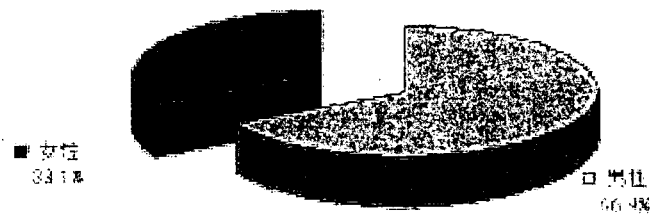
注：MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

感染症患者数の性別内訳

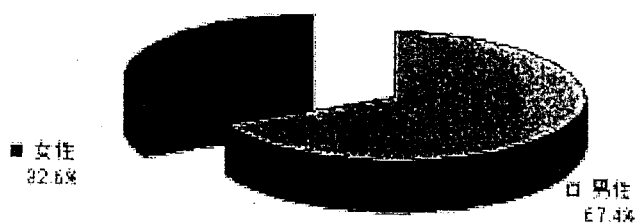


罹患患者数の性別内訳



MRSA

MRSA感染症患者数の性別内訳



MRSA罹患者数の性別内訳

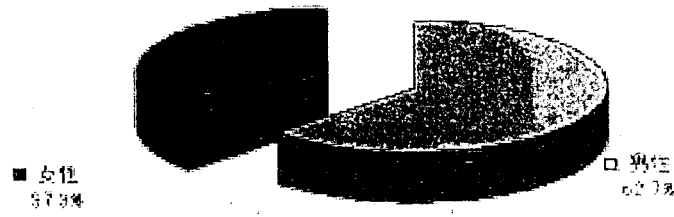


PRSP

PRSP感染症患者数の性別内訳

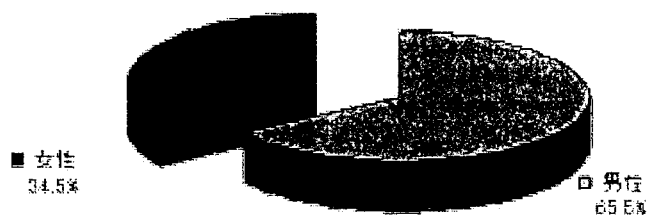


PRSP罹患患者数の性別内訳



その他

その他の感染症患者数の性別内訳



その他の罹患者数の性別内訳

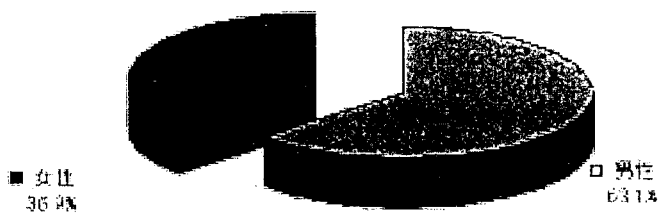
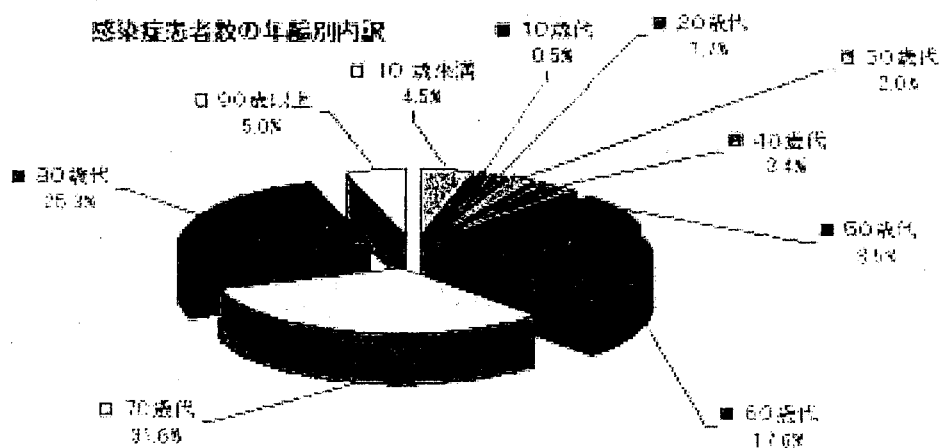
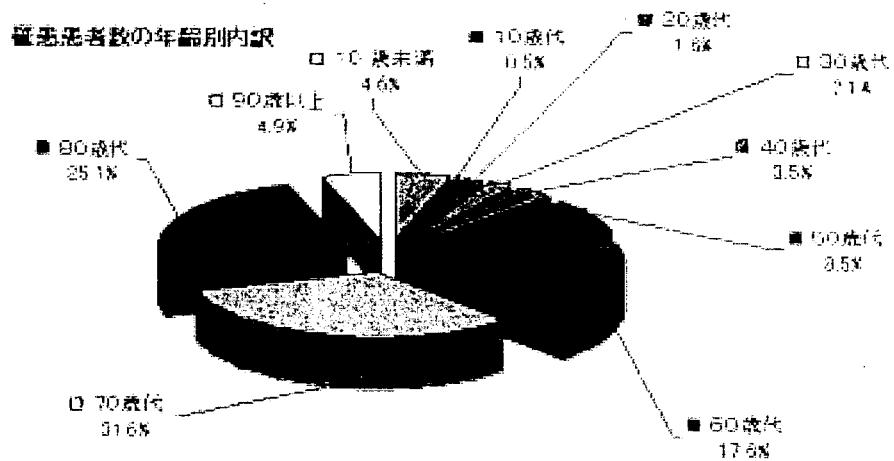


表4. 感染症及び罹患患者の年齢別内訳

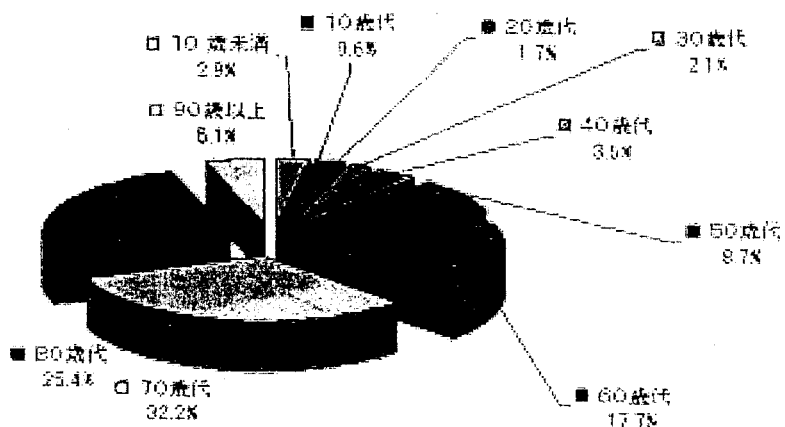
	感染症患者数	罹患患者数	MRSA感染症患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染症患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染症患者数	その他の罹患患者数
10歳未満	144(4.5)	143(4.6)	86(2.9)	86(3.0)	53(48.2)	53(48.2)	5(3.5)	4(3.1)
10歳代	17(0.5)	17(0.5)	17(0.6)	17(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
20歳代	53(1.7)	51(1.6)	51(1.7)	49(1.7)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.4)	2(1.5)
30歳代	65(2.0)	65(2.1)	63(2.1)	63(2.2)	1(0.9)	1(0.9)	1(0.7)	1(0.8)
40歳代	108(3.4)	108(3.5)	104(3.5)	104(3.6)	2(1.8)	2(1.8)	2(1.4)	2(1.5)
50歳代	272(8.5)	264(8.5)	257(8.7)	249(8.6)	6(5.5)	6(5.5)	9(6.3)	9(6.9)
60歳代	563(17.6)	548(17.6)	522(17.7)	511(17.7)	7(6.4)	7(6.4)	34(23.9)	30(23.1)
70歳代	1,011(31.6)	987(31.6)	951(32.2)	928(32.2)	18(16.4)	18(16.4)	42(29.6)	41(31.5)
80歳代	809(25.3)	785(25.1)	748(25.4)	730(25.3)	18(16.4)	18(16.4)	43(30.3)	37(28.5)
90歳以上	160(5.0)	154(4.9)	151(5.1)	145(5.0)	5(4.5)	5(4.5)	4(2.8)	4(3.1)
計	3,202(100.0)	3,122(100.0)	2,950(100.0)	2,882(100.0)	110(100.0)	110(100.0)	142(100.0)	130(100.0)

注：MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

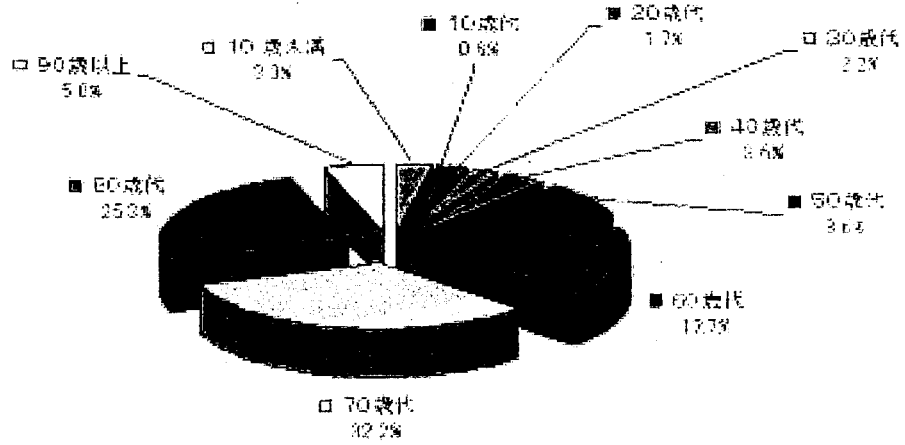




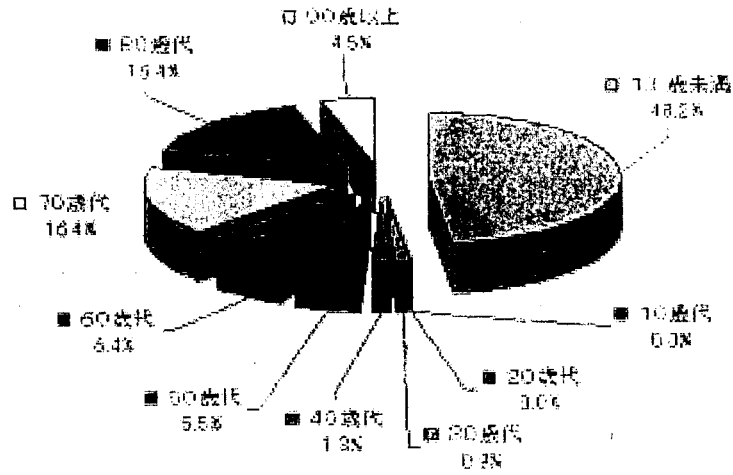
MRSA感染症患者数の年齢別内訳



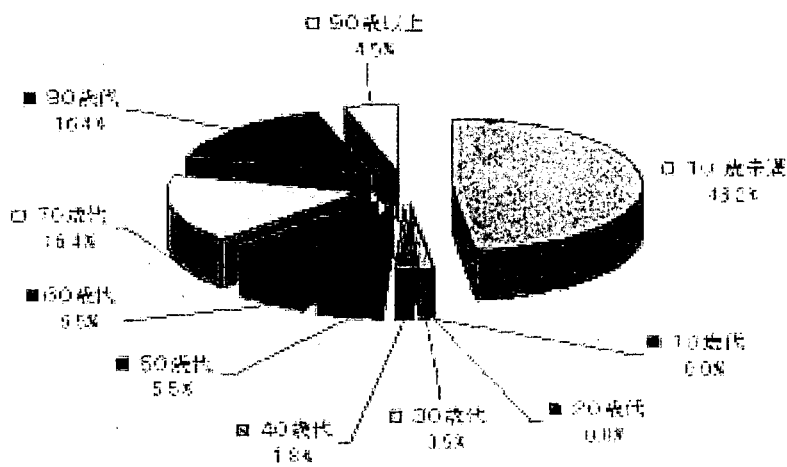
MRSA罹患患者数の年齢別内訳



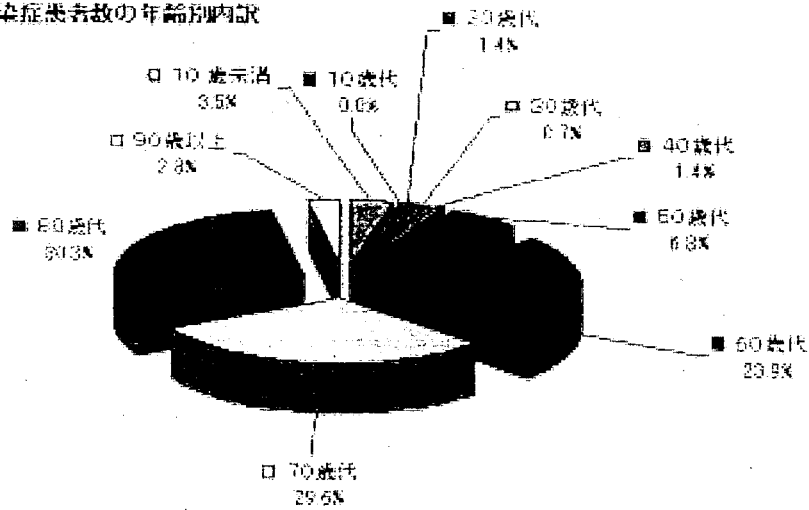
PRSP感染症患者数の年齢別内訳



PRSP罹患患者数の年齢別内訳



その他感染症患者数の年齢別内訳



その他重症患者数の年齢別内訳

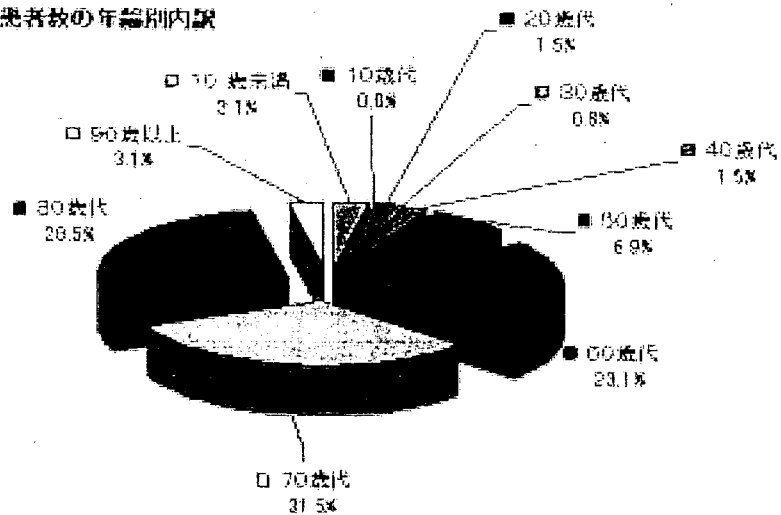
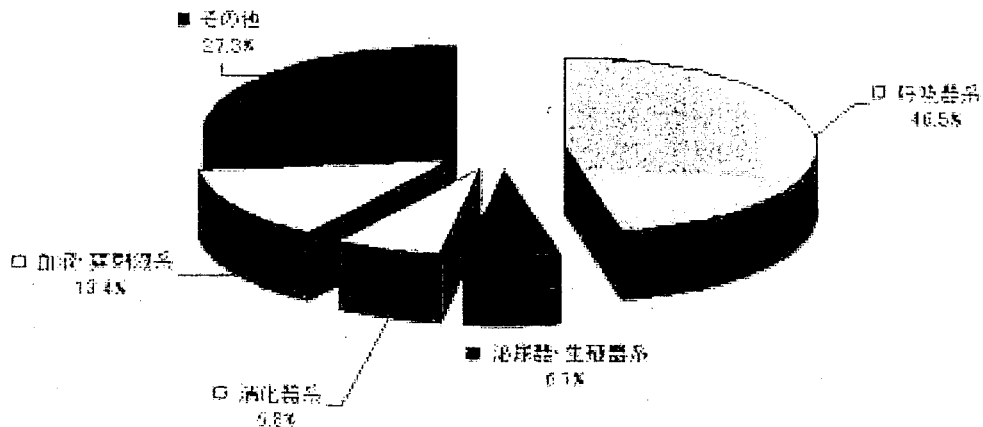


表5. 感染症及び罹患患者の検体内訳

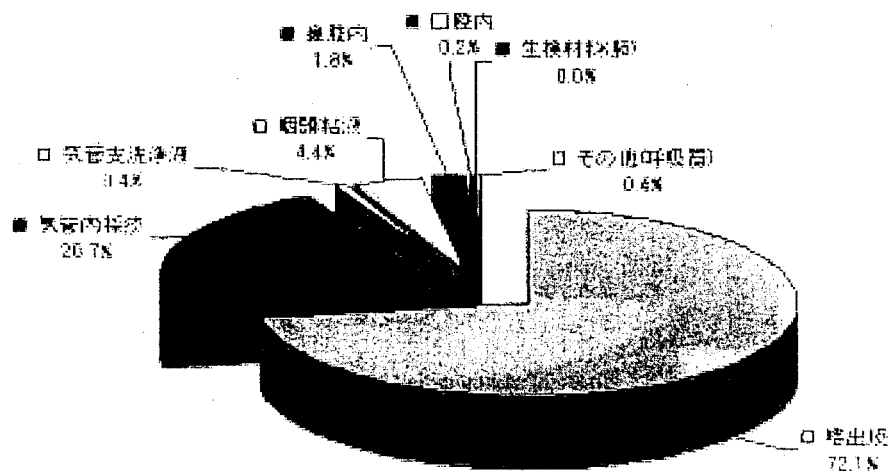
系統	検体	感染症患者	罹患患者	MRSA感染症患者	MRSA罹患患者	PRSP感染症患者	PRSP罹患患者	その他の感染症患者	その他の罹患患者
呼吸器系	喀出痰	1,073	1,054	985	967	54	54	34	33
	気管内探痰	308	293	287	274	5	5	16	14
	気管支洗浄液	6	6	6	6	0	0	0	0
	咽頭粘液	65	63	30	28	35	35	0	0
	鼻腔内	27	26	17	16	6	6	4	4
	口腔内	3	3	3	3	0	0	0	0
	生検材料(肺)	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他(呼吸器)	6	6	5	5	0	0	1	1
	小計	1,488	1,451	1,333	1,299	100	100	55	52
泌尿器・生殖器系	自然排尿	56	54	49	48	0	0	7	6
	探尿カテーテル尿	39	35	32	29	0	0	7	6
	留置カテーテル尿	66	60	50	46	1	1	15	13
	尿道分泌物	1	1	1	1	0	0	0	0
	膣分泌物	4	4	4	4	0	0	0	0
	カテーテル尿(探尿、留置カテの区別不能)	28	28	25	25	0	0	3	3
	その他(泌尿・生殖)	1	1	1	1	0	0	0	0
	小計	195	183	162	154	1	1	32	28
消化器系	糞便	197	194	194	191	0	0	3	3
	胃・十二指腸液	2	2	2	2	0	0	0	0
	胆汁	11	11	10	10	0	0	1	1
	生検材料(消化管)	2	2	1	1	0	0	1	1
	その他(消化管)	5	5	5	5	0	0	0	0
	小計	217	214	212	209	0	0	5	5
血液・穿刺液系	静脈血	284	278	250	247	4	4	30	27
	動脈血	72	72	67	67	2	2	3	3
	髄液	10	10	9	9	0	0	1	1
	胸水	30	30	29	29	0	0	1	1
	腹水	9	9	9	9	0	0	0	0
	関節液	14	14	13	13	1	1	0	0
	骨髓液	0	0	0	0	0	0	0	0
	心嚢水	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他(穿刺液)	9	9	8	8	0	0	1	1
	小計	428	422	385	382	7	7	36	33
その他		874	852	858	838	2	2	14	12
計		3,202	3,122	2,950	2,882	110	110	142	130

注：MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

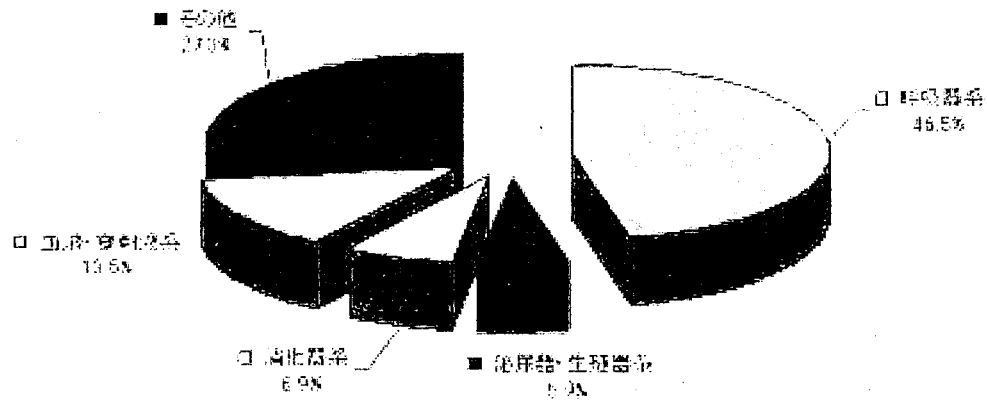
感染症件数の検体内容



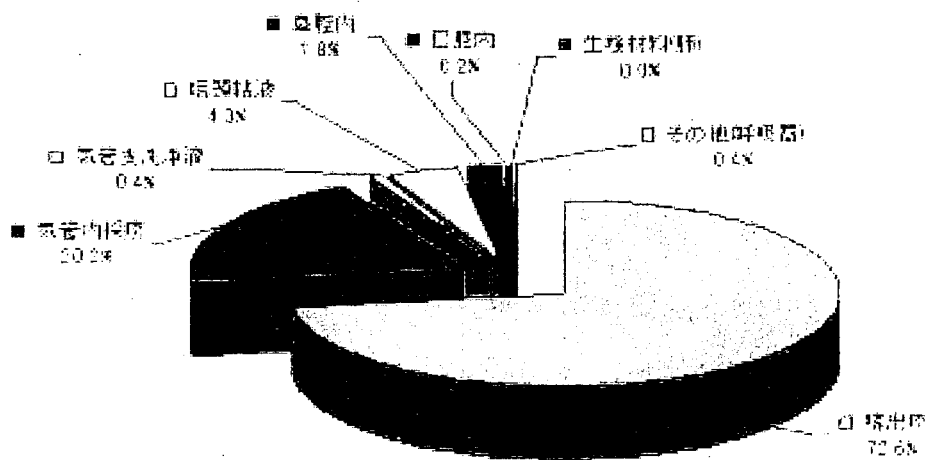
感染症件数の呼吸器系検体内容



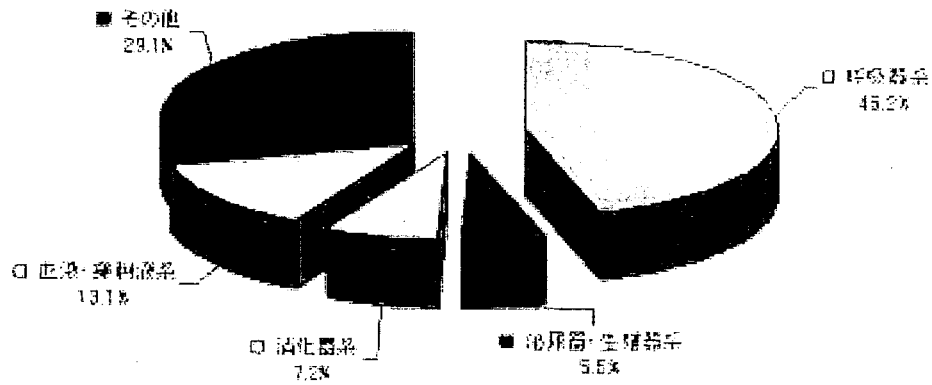
塵生件数の機体内容



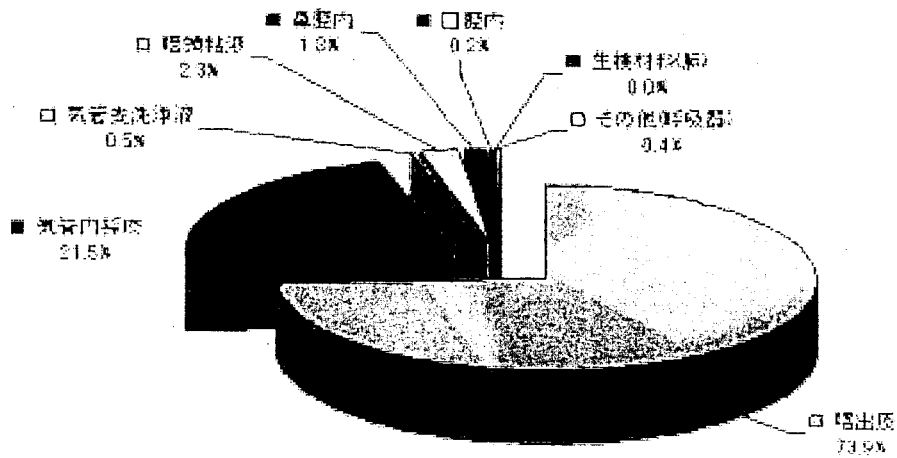
塵生件数の呼吸器系機体内容



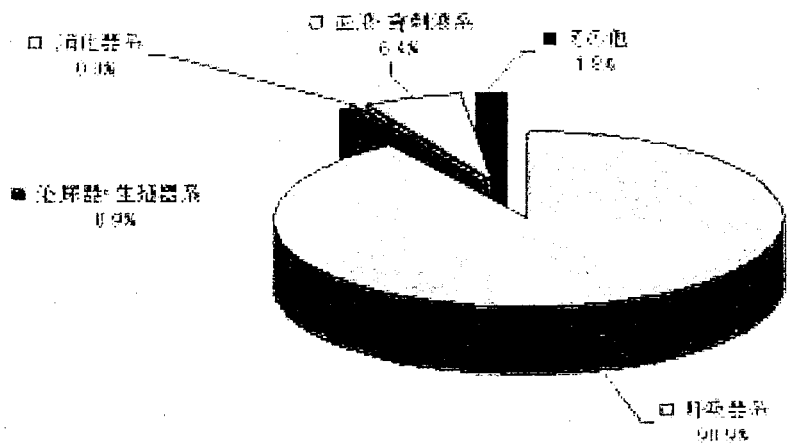
MRSA感染症件数の検体内容



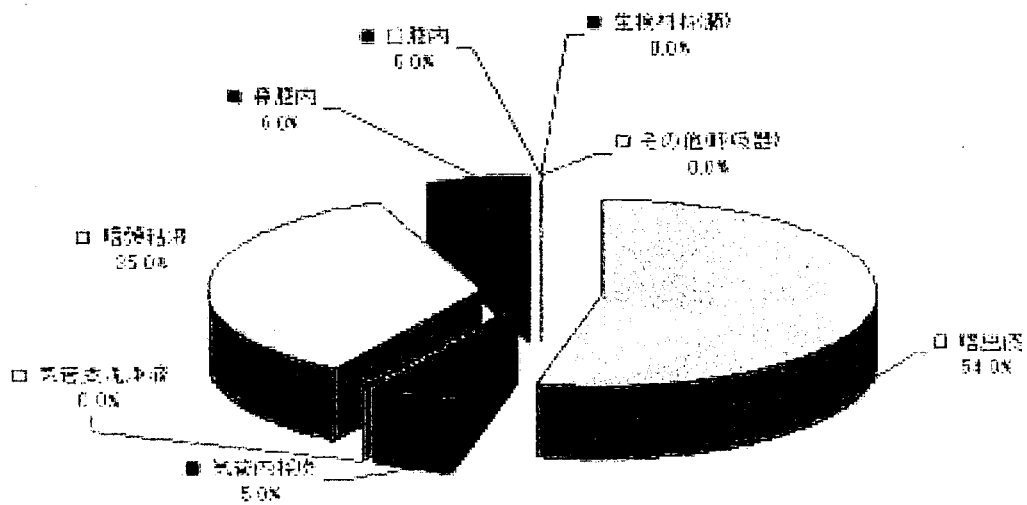
MRSA感染症件数の呼吸器系検体内容



PRSP感染症件数の検体内容



PRSP感染症件数の呼吸器系検体内容



資料 1-2-3-4 冊

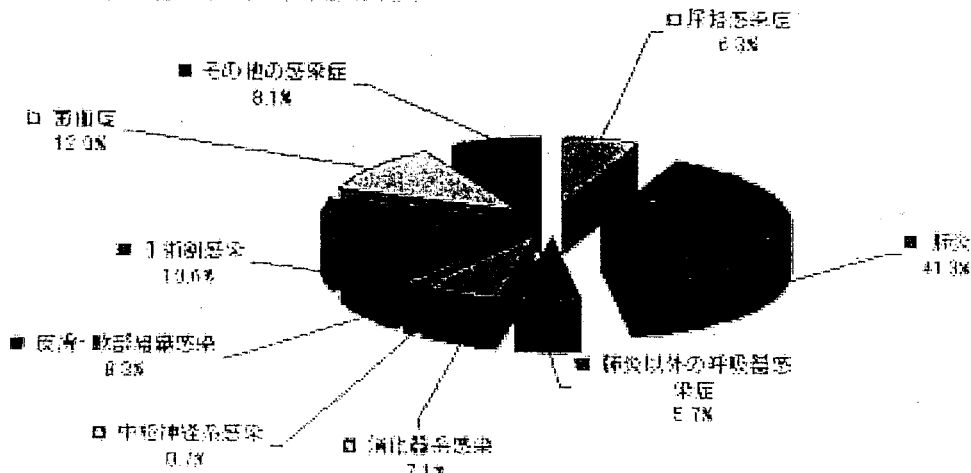
表6. 感染症及び罹患患者の感染症名内訳

	感染患者数	罹患患者数	MRSA感染患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染患者数	その他の罹患患者数
尿路感染症	201(6.3)	190(6.1)	166(5.6)	159(5.5)	0(0.0)	0(0.0)	35(24.6)	31(23.8)
肺炎	1,324(41.3)	1,292(41.4)	1,212(41.1)	1,184(41.1)	60(54.5)	60(54.5)	52(36.6)	48(36.9)
肺炎以外の呼吸器感染症	183(5.7)	178(5.7)	138(4.7)	133(4.6)	40(36.4)	40(36.4)	5(3.5)	5(3.8)
消化器系感染	227(7.1)	224(7.2)	222(7.5)	219(7.6)	0(0.0)	0(0.0)	5(3.5)	5(3.8)
中枢神経系感染	22(0.7)	21(0.7)	20(0.7)	19(0.7)	2(1.8)	2(1.8)	0(0.0)	0(0.0)
皮膚・軟部組織感染	265(8.3)	261(8.4)	261(8.8)	257(8.9)	1(0.9)	1(0.9)	3(2.1)	3(2.3)
手術創感染	338(10.6)	328(10.5)	335(11.4)	325(11.3)	0(0.0)	0(0.0)	3(2.1)	3(2.3)
菌血症	383(12.0)	377(12.1)	348(11.8)	345(12.0)	6(5.5)	6(5.5)	29(20.4)	26(20.0)
その他の感染症	259(8.1)	251(8.0)	248(8.4)	241(8.4)	1(0.9)	1(0.9)	10(7.0)	9(6.9)
感染件数計	3,202(100.0)	3,122(100.0)	2,950(100.0)	2,882(100.0)	110(100.0)	110(100.0)	142(100.0)	130(100.0)

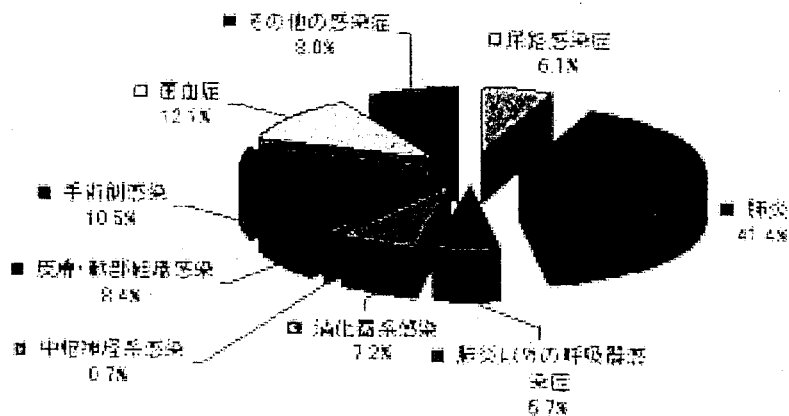
注:MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。()内は百分率

全体

感染症患者数の感染症名別内訳

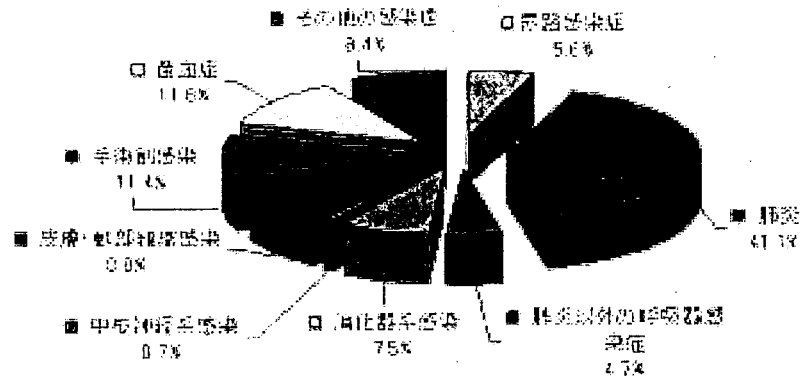


罹患患者数の感染症名別内訳

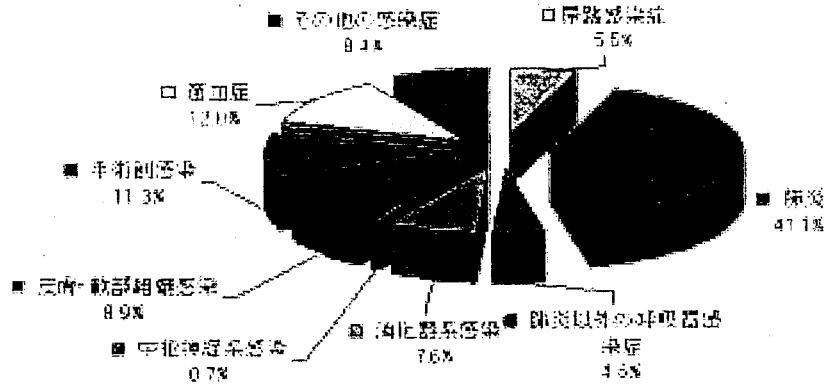


MRSA

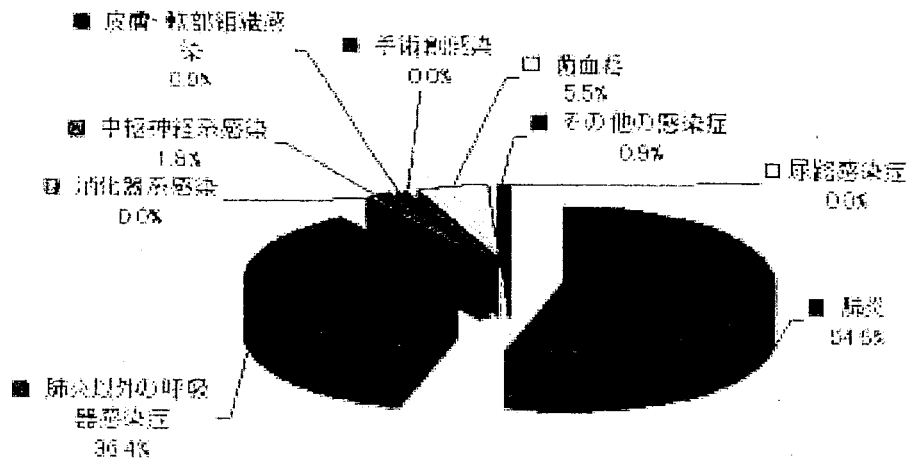
MRSA感染症患者数の感染症名別内訳



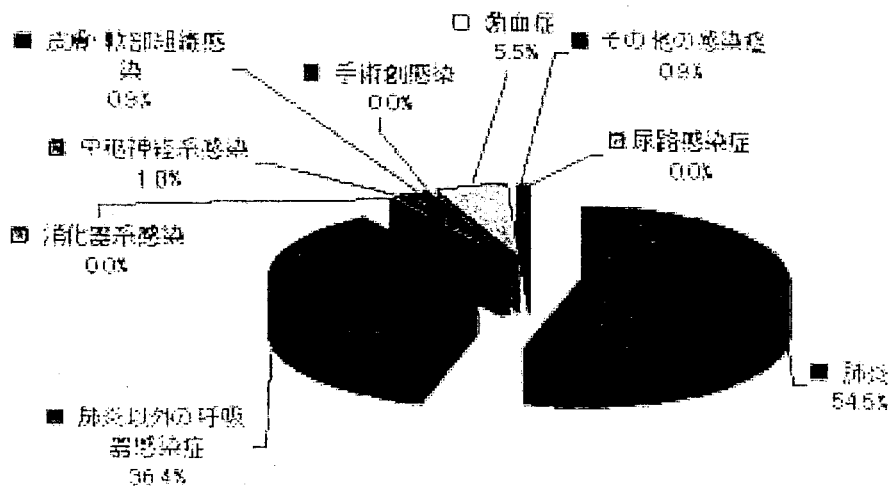
MRSA菌血症患者数の感染症名別内訳



PRSP感染症患者数の感染症名別内訳

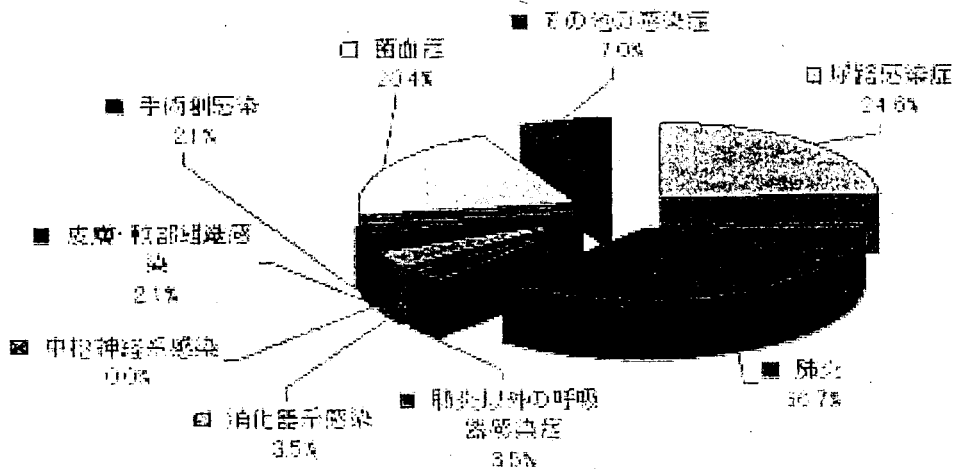


PRSP菌血症患者数の感染症名別内訳



その他

その他の感染症患者数の感染症名別内訳



その他の感染症患者数の感染症名別内訳

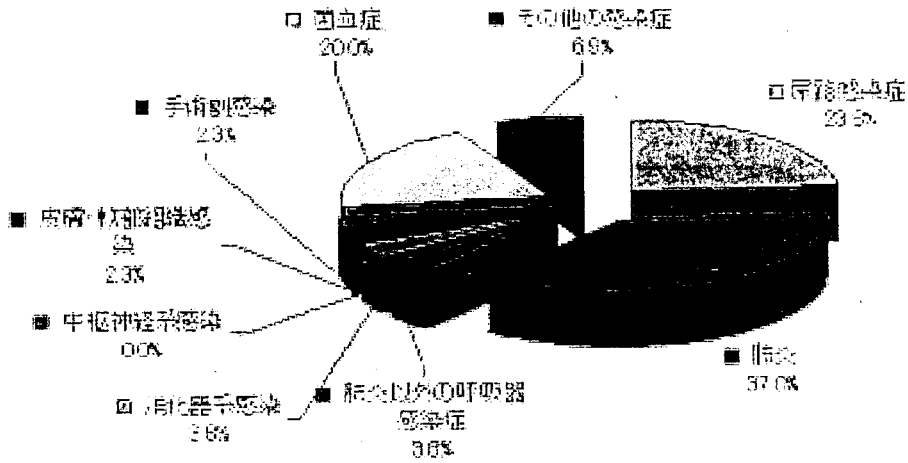


表7. 感染症及び罹患患者の基礎疾患名内訳

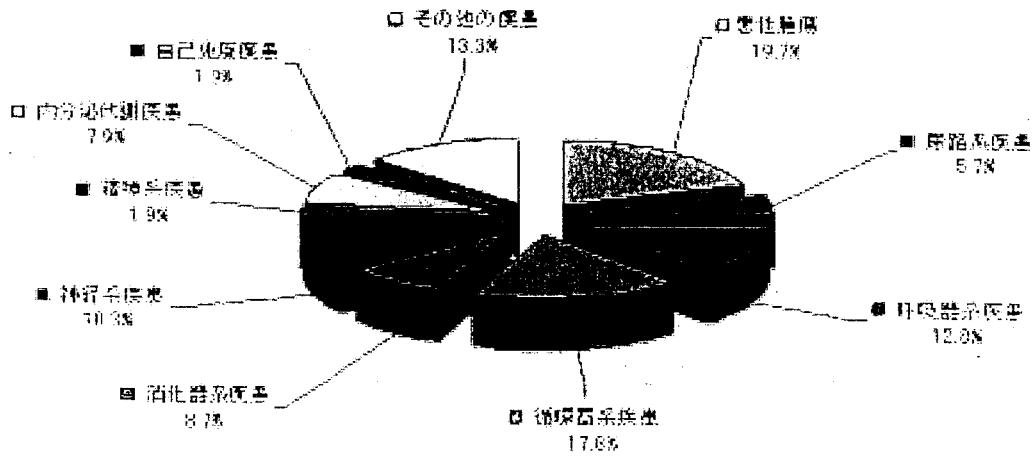
	感染患者数	罹患患者数	MRSA感染患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染患者数	その他の罹患患者数
悪性腫瘍	770(19.7)	754(19.7)	721(19.8)	708(19.8)	7(8.0)	7(8.0)	42(22.7)	39(22.8)
尿路系疾患	222(5.7)	212(5.5)	203(5.6)	195(5.5)	1(1.1)	1(1.1)	18(9.7)	16(9.4)
呼吸器系疾患	501(12.8)	495(12.9)	430(11.8)	426(11.9)	49(55.7)	49(55.7)	22(11.9)	20(11.7)
循環器系疾患	696(17.8)	681(17.8)	665(18.3)	651(18.2)	8(9.1)	8(9.1)	23(12.4)	22(12.9)
消化器系疾患	340(8.7)	332(8.7)	317(8.7)	311(8.7)	3(3.4)	3(3.4)	20(10.8)	18(10.5)
神経系疾患	404(10.3)	393(10.3)	380(10.4)	371(10.4)	6(6.8)	6(6.8)	18(9.7)	16(9.4)
精神系疾患	75(1.9)	73(1.9)	72(2.0)	70(2.0)	1(1.1)	1(1.1)	2(1.1)	2(1.2)
内分泌代謝疾患	310(7.9)	304(7.9)	289(7.9)	284(8.0)	5(5.7)	5(5.7)	16(8.6)	15(8.8)
自己免疫疾患	74(1.9)	73(1.9)	69(1.9)	68(1.9)	2(2.3)	2(2.3)	3(1.6)	3(1.8)
その他の疾患	521(13.3)	512(13.4)	494(13.6)	486(13.6)	6(6.8)	6(6.8)	21(11.4)	20(11.7)
基礎疾患件数計	3,913(100.0)	3,829(100.0)	3,640(100.0)	3,570(100.0)	88(100.0)	88(100.0)	185(100.0)	171(100.0)

()内は百分率

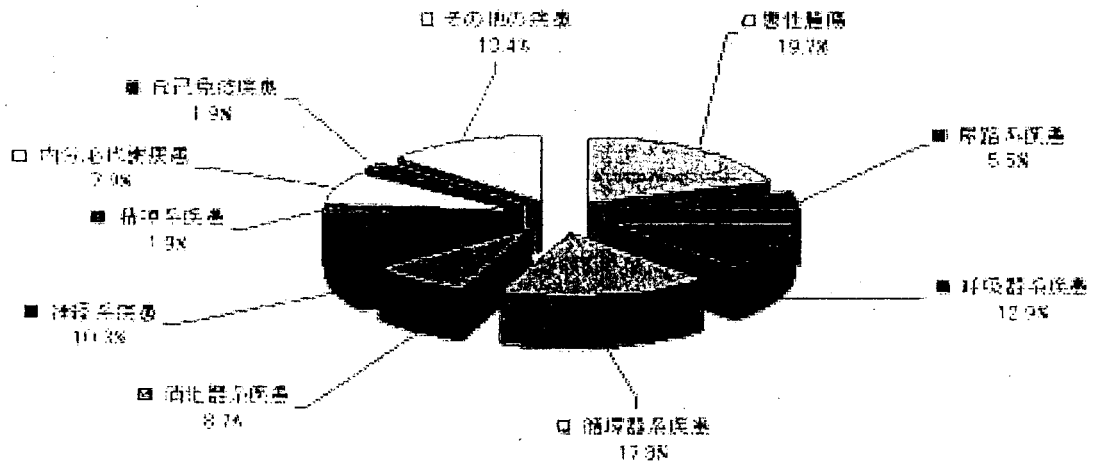
注:MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

感染症患者数の基礎疾患名別内訳

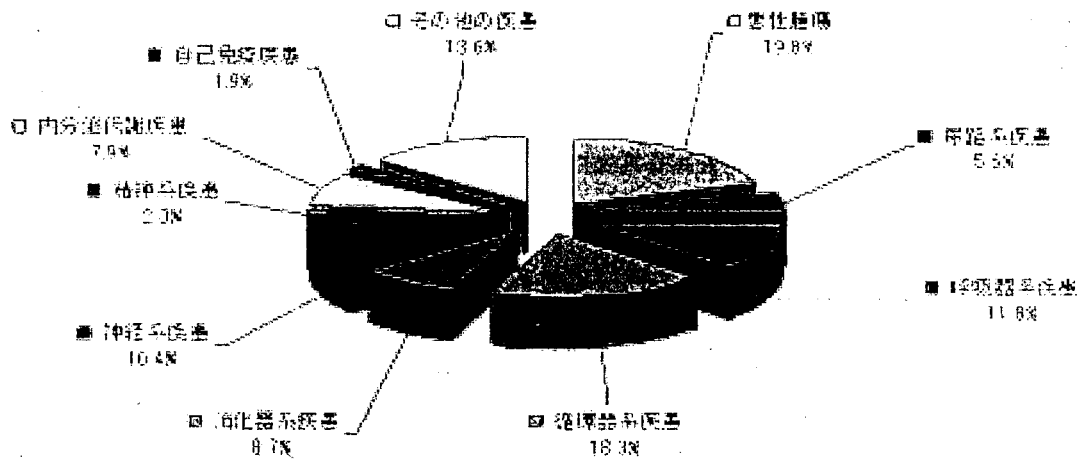


罹患者数の基礎疾患名別内訳

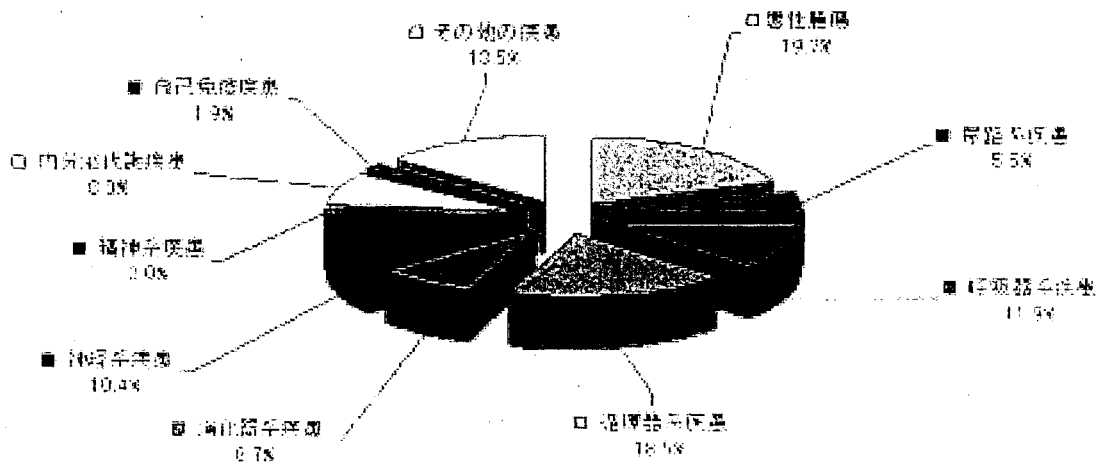


MRSA

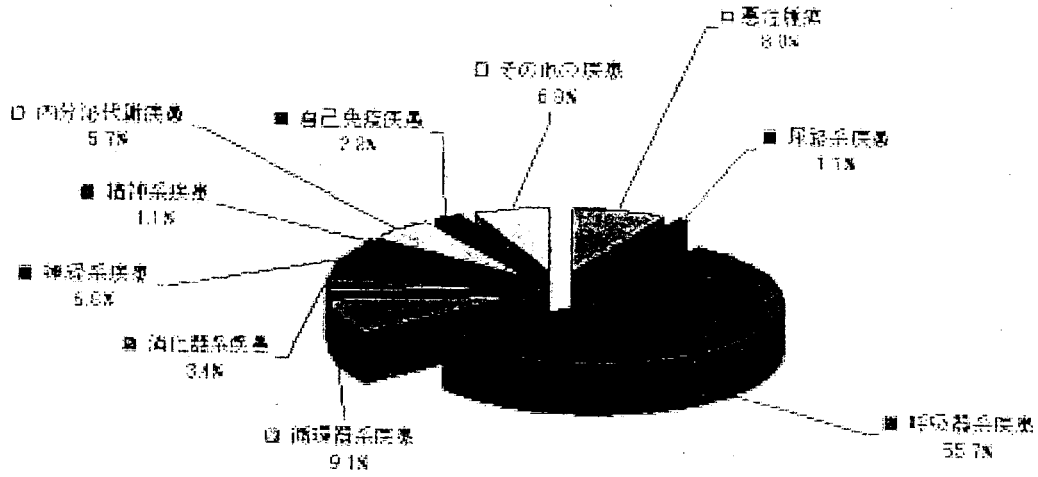
MRSA感染症患者数の基礎疾患名別内訳



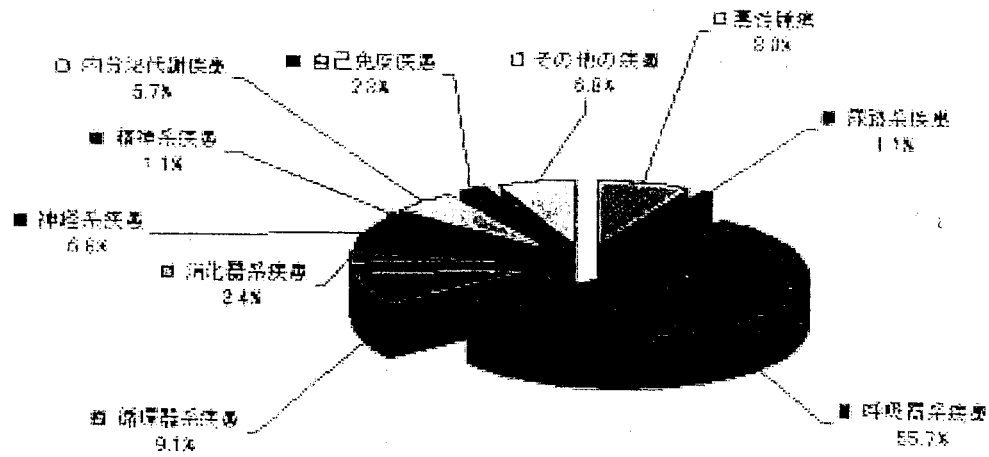
MRSA疑患者数の基礎疾患名別内訳



PRSP感染症患者数の基礎疾患名別内訳

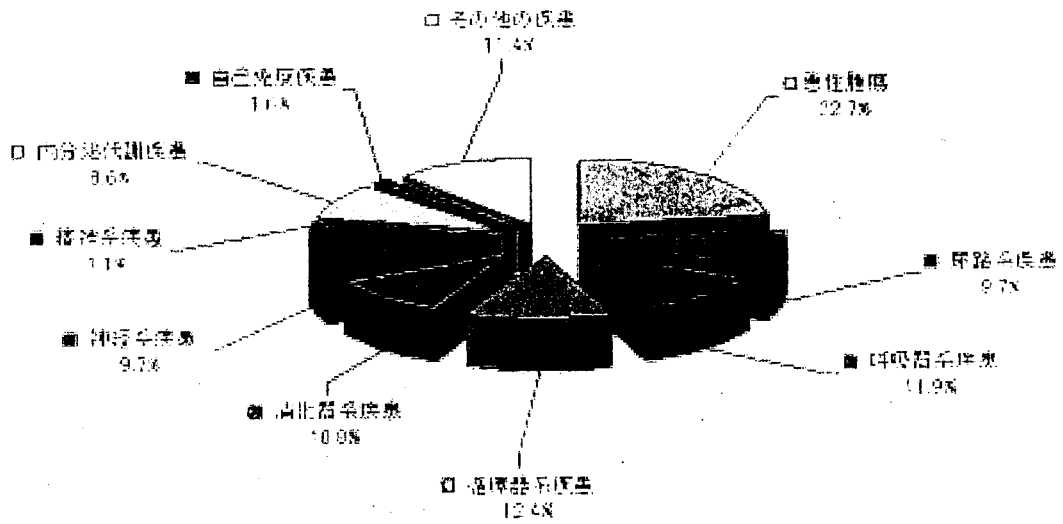


PRSP罹患者数の基礎疾患名別内訳



その他

その他感染症患者数の基礎疾患名別内訳



その他罹患患者数の基礎疾患名別内訳

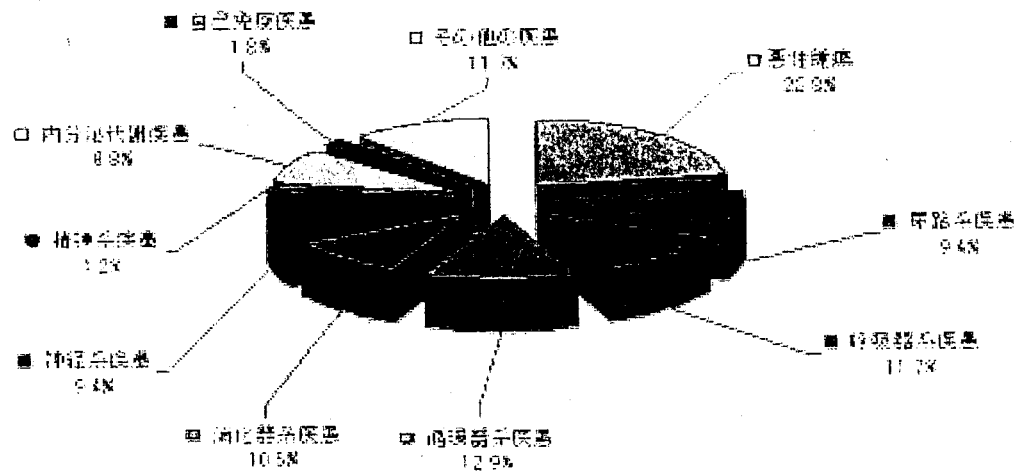
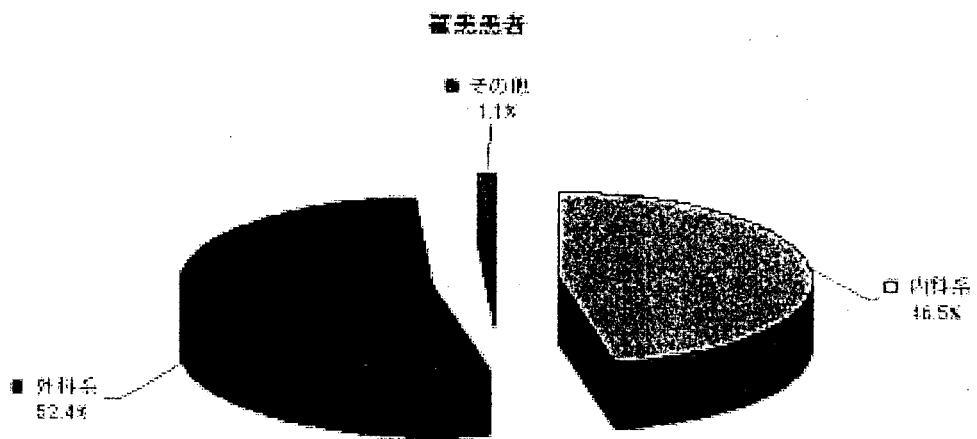
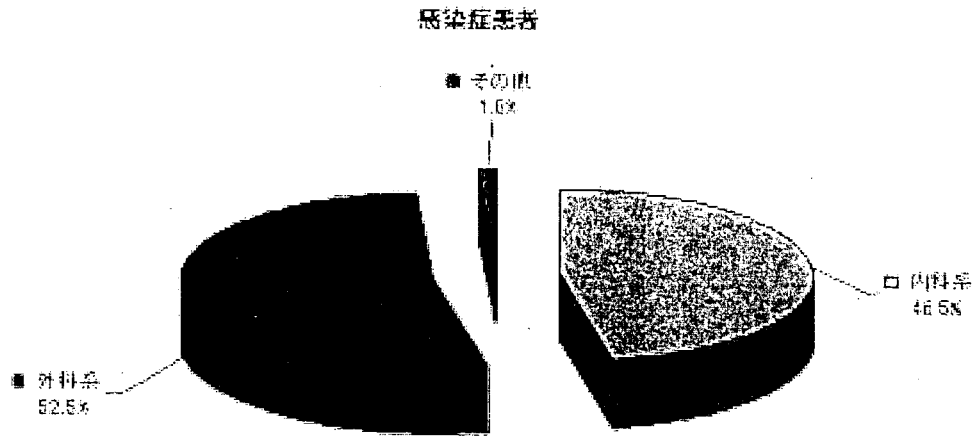


表 8. 感染症及び罹患患者の診療科内訳

	感染患者	罹患患者	MRSA感染患者	MRSA罹患患者	PRSP感染患者	PRSP罹患患者	その他の感染患者	その他の罹患患者
内科系	1,490	1,451	1,314	1,282	96	96	80	73
外科系	1,679	1,638	1,603	1,567	14	14	62	57
その他	33	33	33	33	0	0	0	0
計	3,202	3,122	2,950	2,882	110	110	142	130

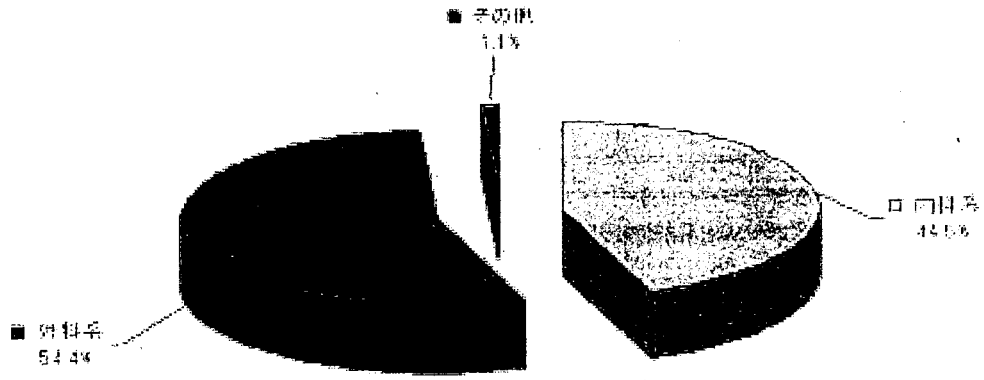
注: MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

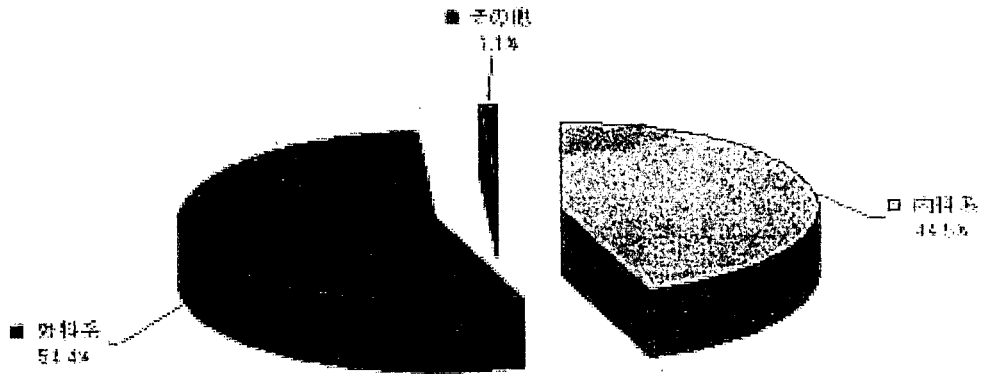


MRSA

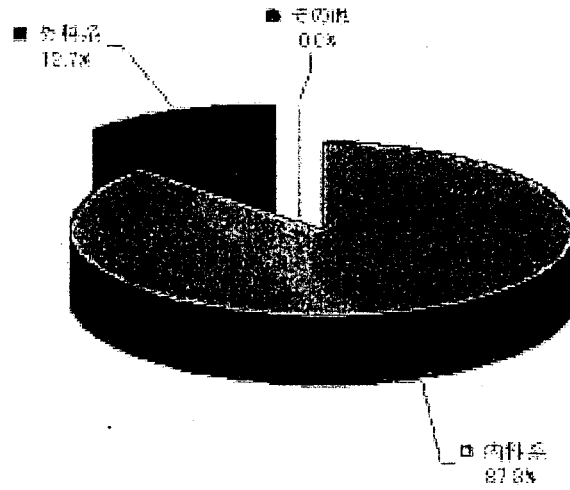
MRSA感染症患者



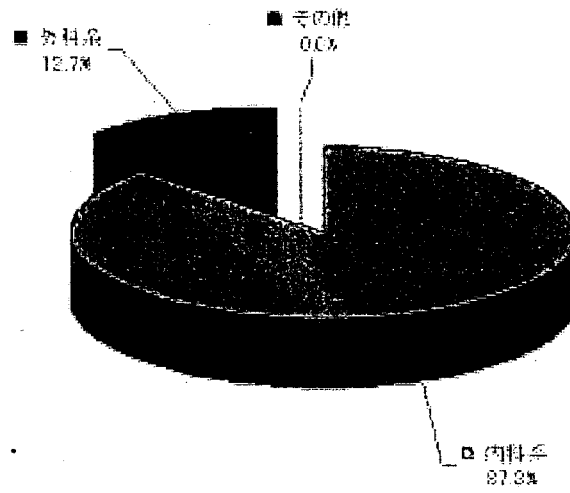
MRSA罹患患者



PRSP感染症患者

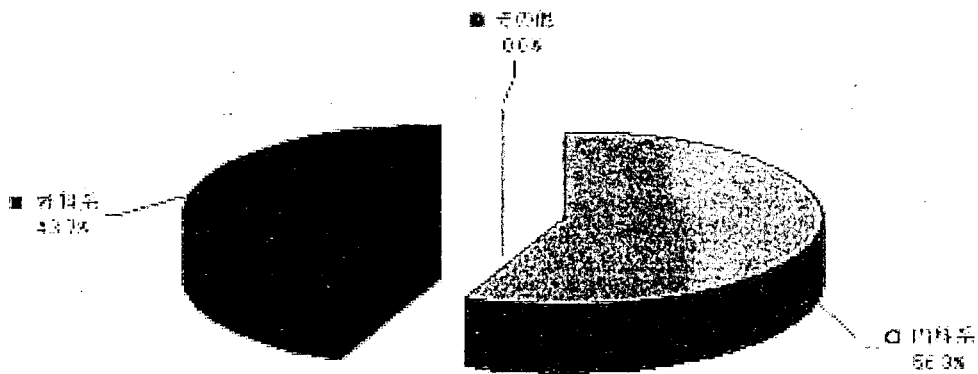


PRSP罹患者



その他

その他感染症患者



その他罹患者

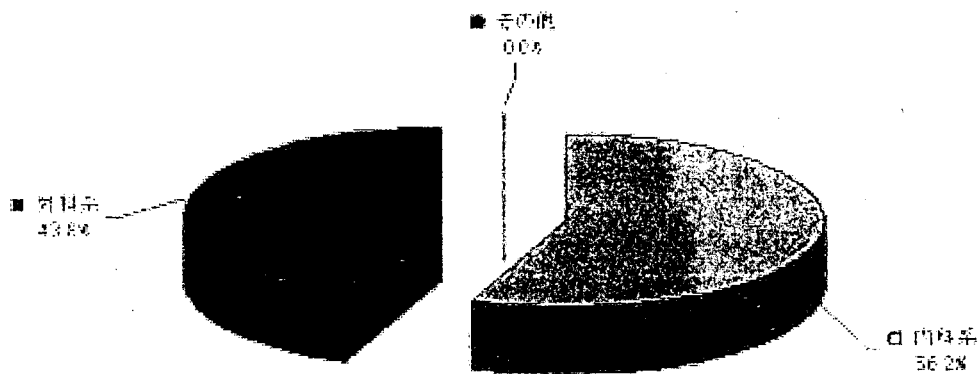


表9. 感染症及び罹患患者の体温分布

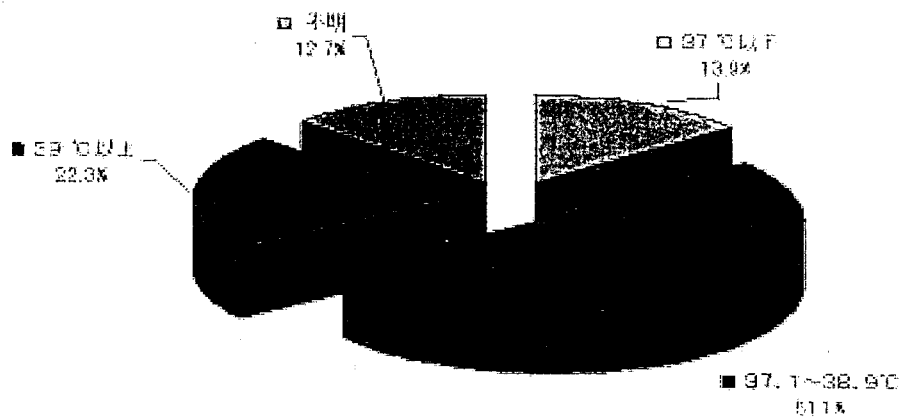
	感染症患者数	罹患患者数	MRSA感染症患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染症患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染症患者数	その他の罹患患者数
37℃以下	444(13.9)	428(13.7)	411(13.9)	396(13.7)	13(11.8)	13(11.8)	20(14.1)	19(14.6)
37.1～38.9℃	1,636(51.1)	1,592(51.0)	1,520(51.5)	1,478(51.3)	54(49.1)	54(49.1)	62(43.7)	60(46.2)
39℃以上	715(22.3)	698(22.4)	641(21.7)	632(21.9)	32(29.1)	32(29.1)	42(29.6)	34(26.2)
不明	407(12.7)	404(12.9)	378(12.8)	376(13.0)	11(10.0)	11(10.0)	18(12.7)	17(13.1)
計	3,202(100.0)	3,122(100.0)	2,950(100.0)	2,882(100.0)	110(100.0)	110(100.0)	142(100.0)	130(100.0)

()内は百分率

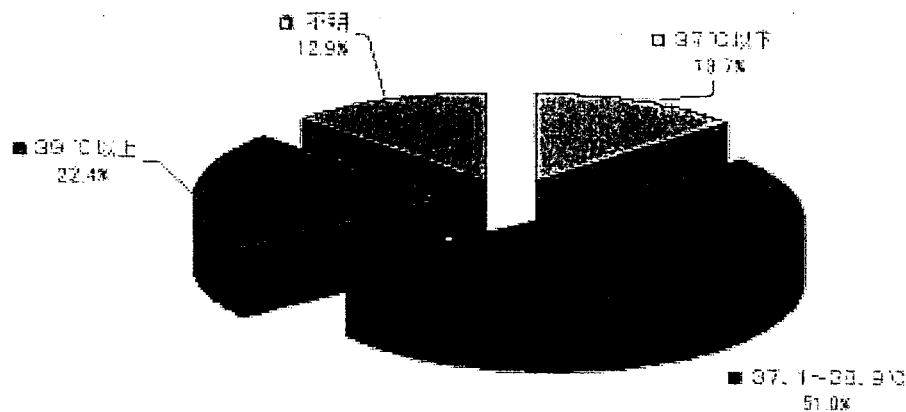
注:MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

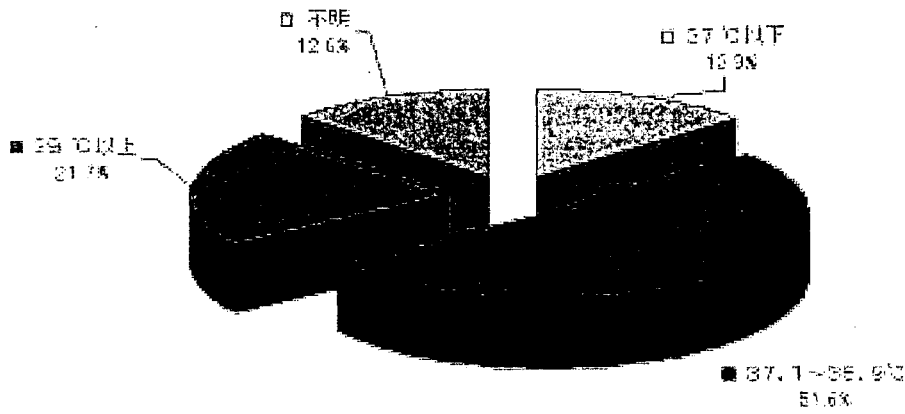
感染症患者数の体温分布



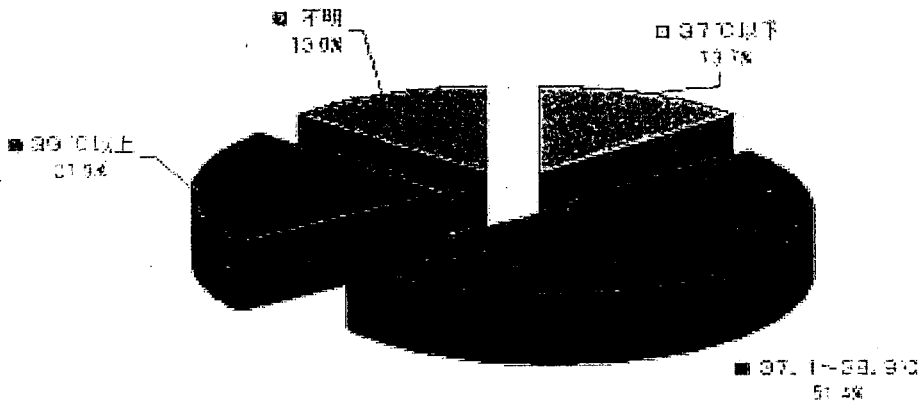
罹患患者数の体温分布



MRSA感染症患者数の体温分布

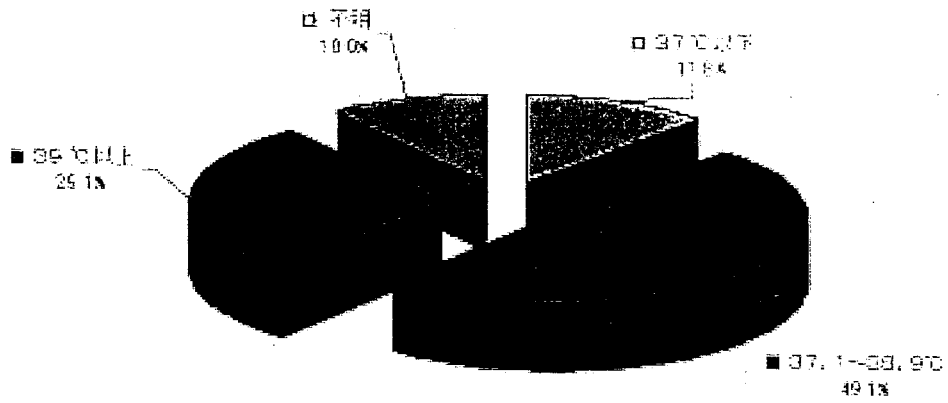


MRSA罹患患者数の体温分布

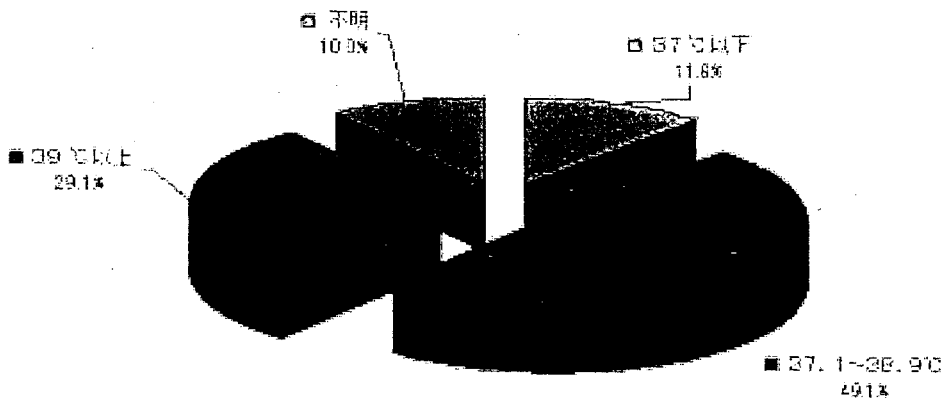


PRSP

PRSP感染症患者数の体温分布

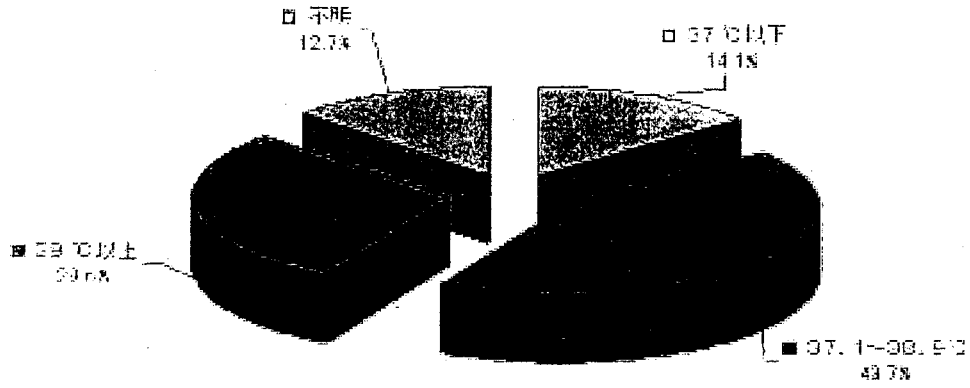


PRSP罹患患者数の体温分布

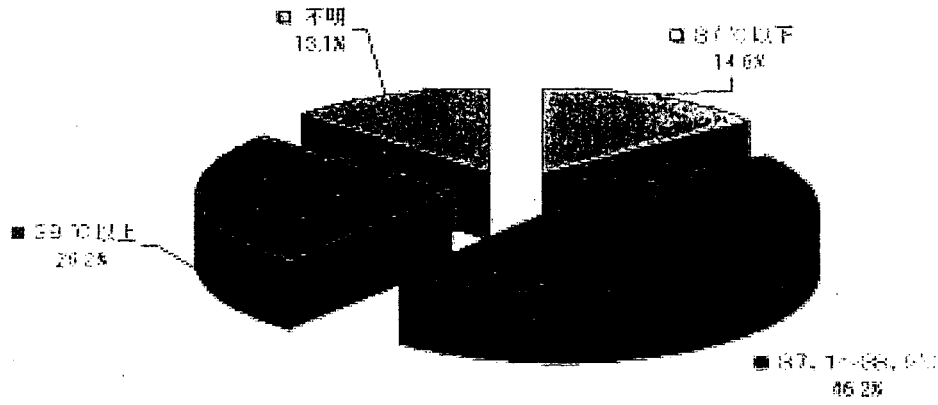


その他

その他感染症患者数の体温分布



その他菌症患者数の体温分布



◀ 図表 1-2-3-4 ▶

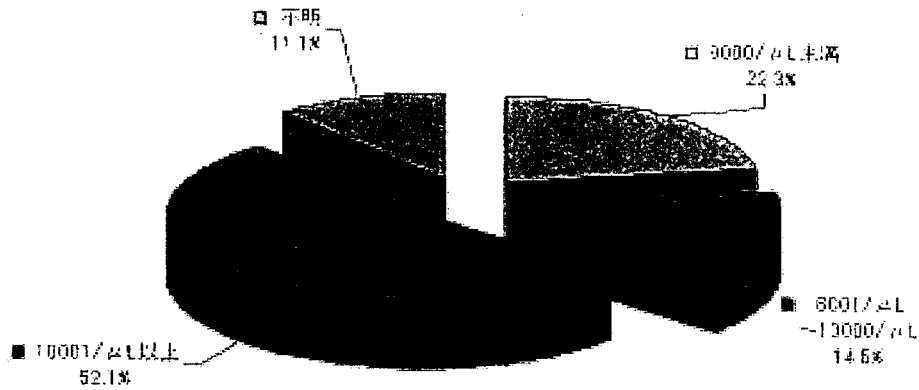
表10. 感染症及び罹患患者の白血球数分布

白血球数	感染患者数	罹患患者数	MRSA感染患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染患者数	その他の罹患患者数
8000/ μ L未満	715 (22.3)	692 (22.2)	665 (22.5)	644 (22.3)	16(14.5)	16(14.5)	34(23.9)	32(24.6)
8001/ μ L~10000/ μ L	464 (14.5)	456 (14.6)	422 (14.3)	415 (14.4)	20(18.2)	20(18.2)	22(15.5)	21(16.2)
10001/ μ L以上	1,668 (52.1)	1,624 (52.0)	1,537 (52.1)	1,499 (52.0)	65(59.1)	65(59.1)	66(46.5)	60(46.2)
不明	355 (11.1)	350 (11.2)	326 (11.1)	324 (11.2)	9(8.2)	9(8.2)	20(14.1)	17(13.1)
計	3,202 (100.0)	3,122 (100.0)	2,950 (100.0)	2,882 (100.0)	110 (100.0)	110 (100.0)	142(100.0)	130(100.0)

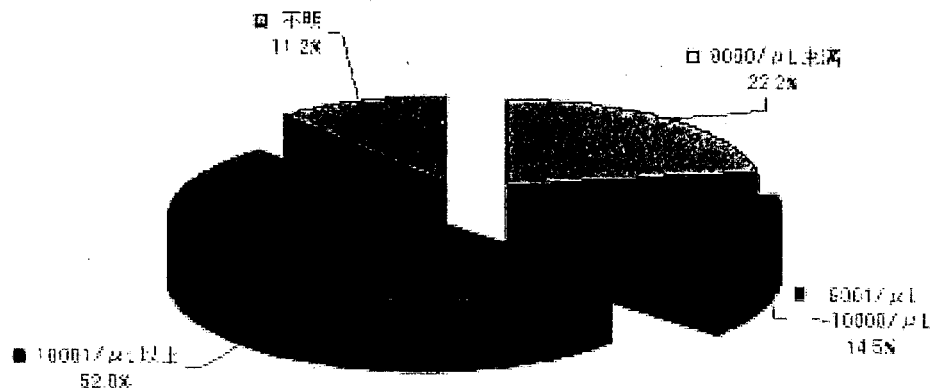
注：MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロ β ラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

感染症患者数の白血球数分布

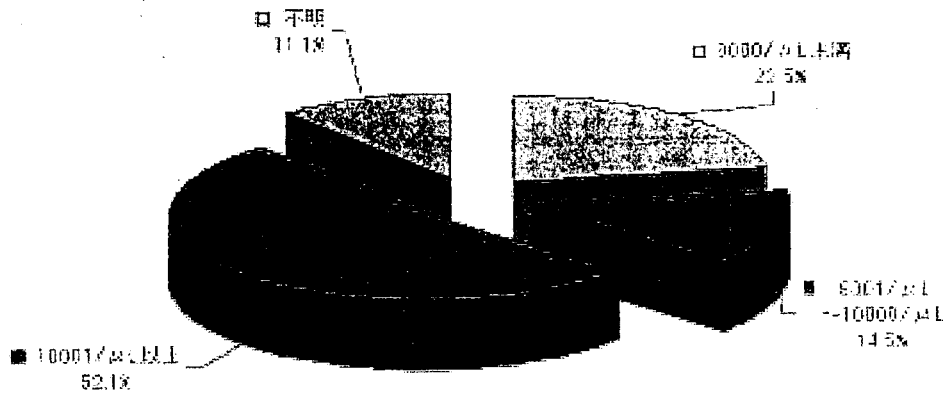


罹患患者数の白血球数分布

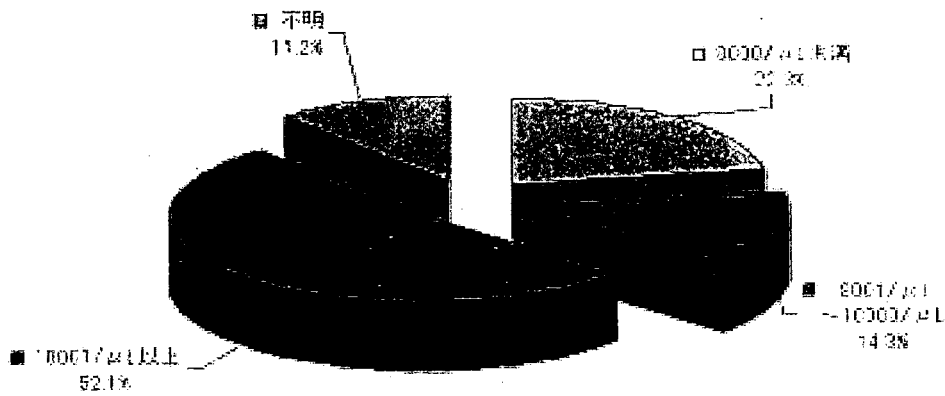


MRSA

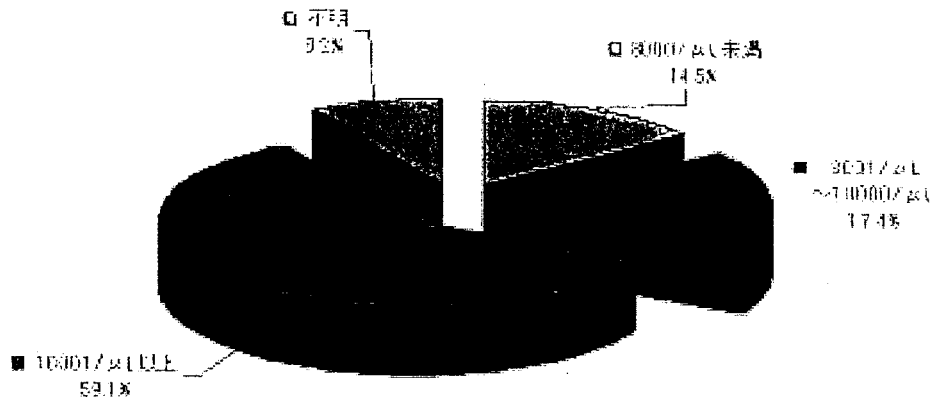
MRSA感染症患者数の白血球数分布



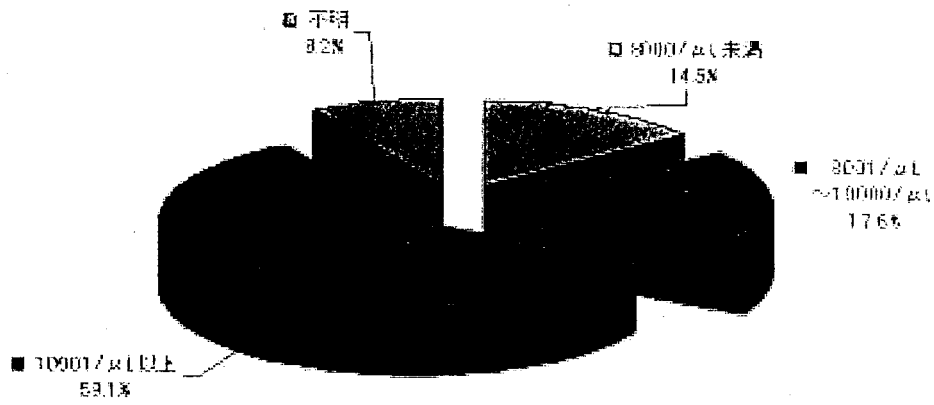
MRSA罹患患者数の白血球数分布



PRSP感染症患者数の白血球数分布

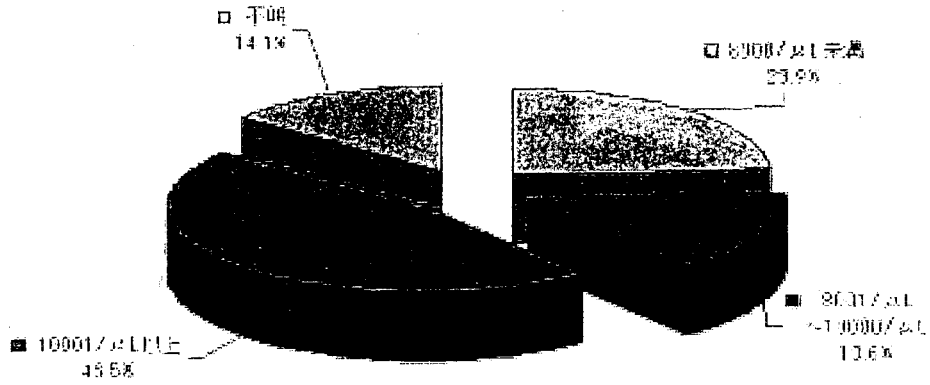


PRSP無菌症患者数の白血球数分布



その他

その他感染症患者数の白血球数分布



その他罹患者数の白血球数分布

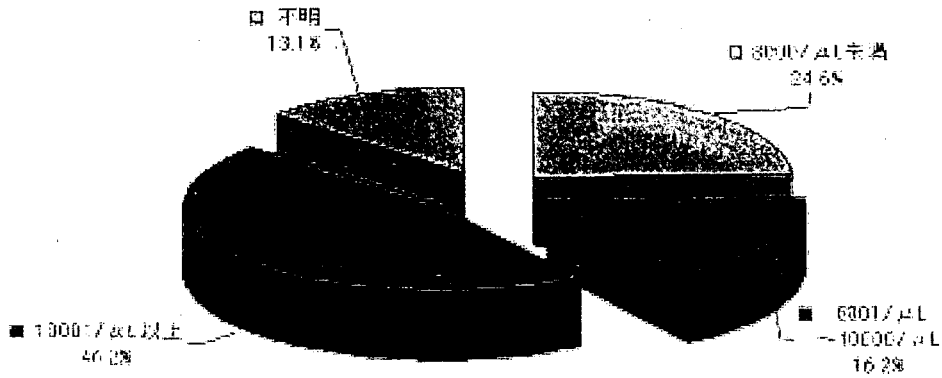


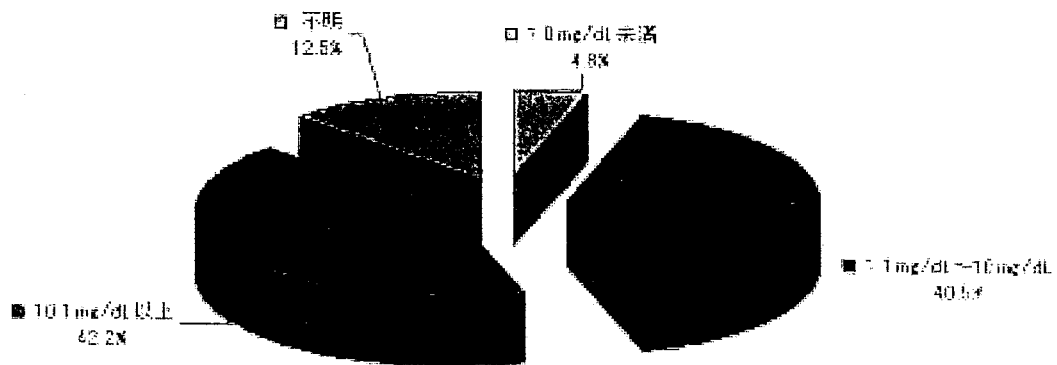
表 1 1. 感染症及び罹患患者のCRP値分布

CRP値	感染患者数	罹患患者数	MRSA感染患者数	MRSA罹患患者数	PRSP感染患者数	PRSP罹患患者数	その他の感染患者数	その他の罹患患者数
1.0mg/dL未満	153 (4.8)	147 (4.7)	133 (4.5)	127 (4.4)	15 (13.6)	15 (13.6)	5 (3.5)	5 (3.8)
1.1mg/dL~10mg/dL	1,298 (40.5)	1,256 (40.2)	1,202 (40.7)	1,165 (40.4)	45 (40.9)	45 (40.9)	51 (35.9)	46 (35.4)
10.1mg/dL以上	1,350 (42.2)	1,323 (42.4)	1,248 (42.3)	1,225 (42.5)	41 (37.3)	41 (37.3)	61 (43.0)	57 (43.8)
不明	401 (12.5)	396 (12.7)	367 (12.4)	365 (12.7)	9 (8.2)	9 (8.2)	25 (17.6)	22 (16.9)
計	3,202 (100.0)	3,122 (100.0)	2,950 (100.0)	2,882 (100.0)	110 (100.0)	110 (100.0)	142 (100.0)	130 (100.0)

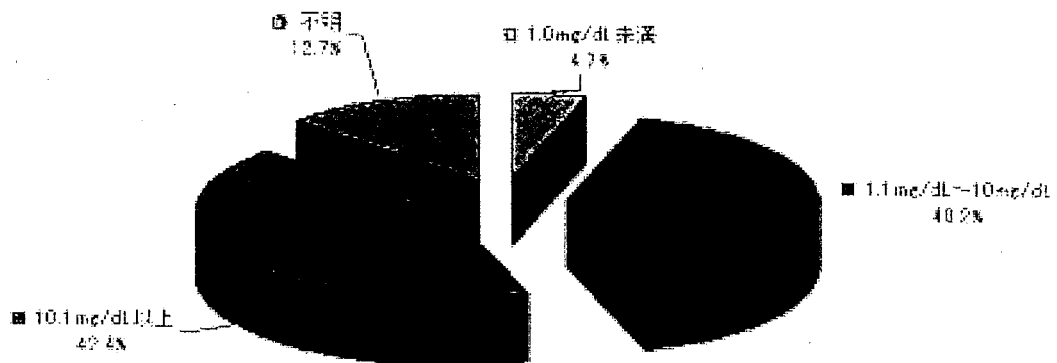
注：MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

全体

感染症患者数のCRP値分布

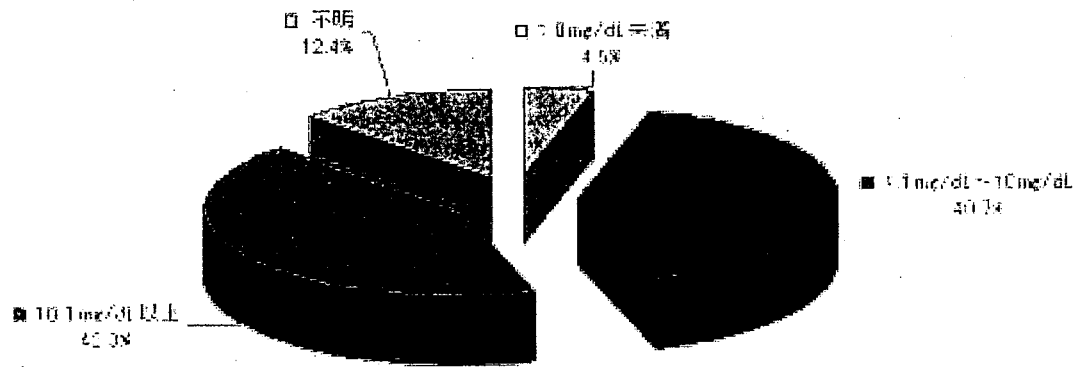


罹患患者数のCRP値分布

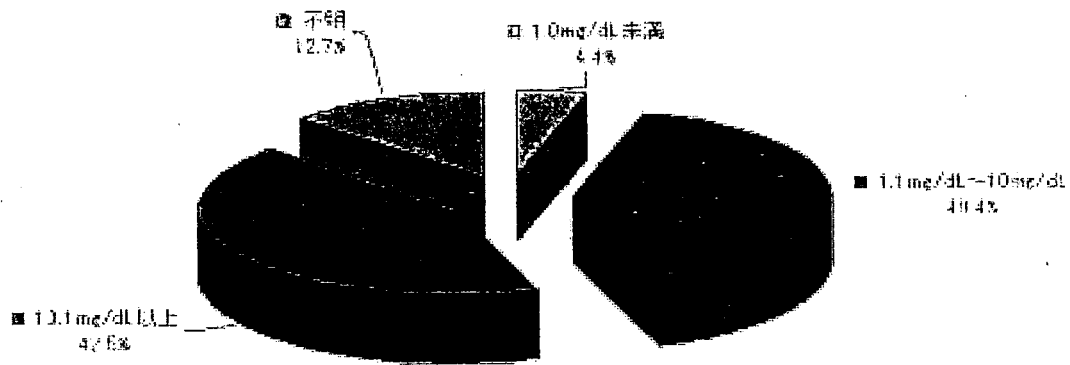


MRSA

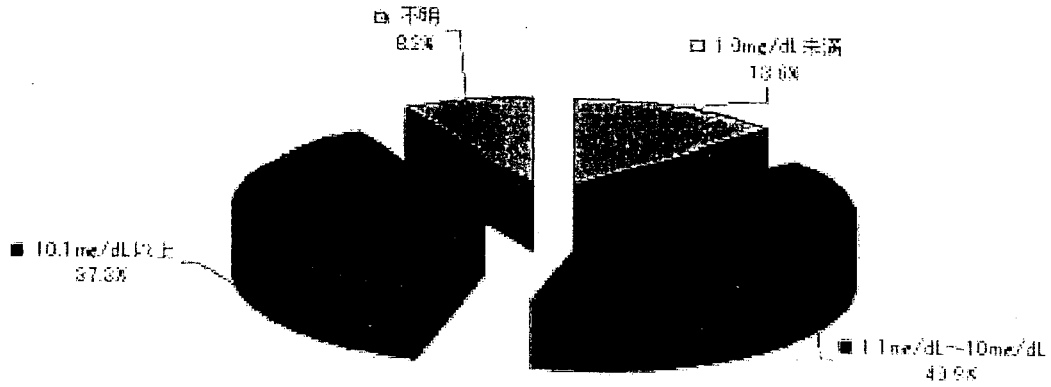
MRSA感染症患者数のCRP値分布



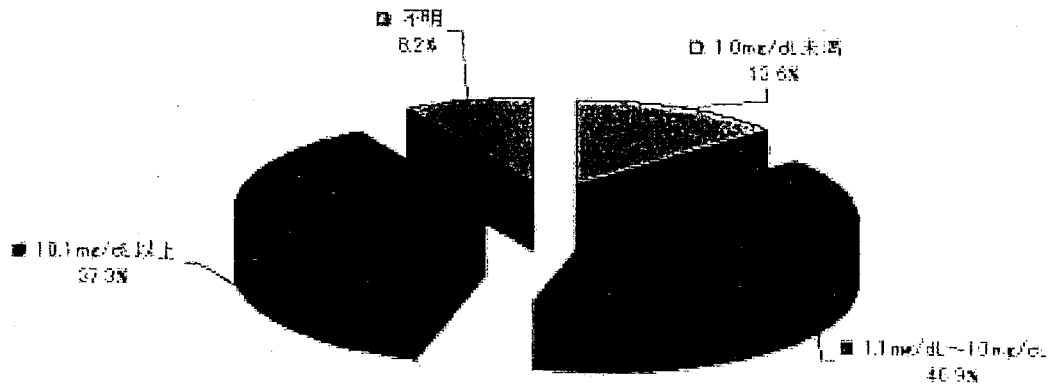
MRSA罹患患者数のCRP値分布



PRSP感染症患者数のCRP値分布

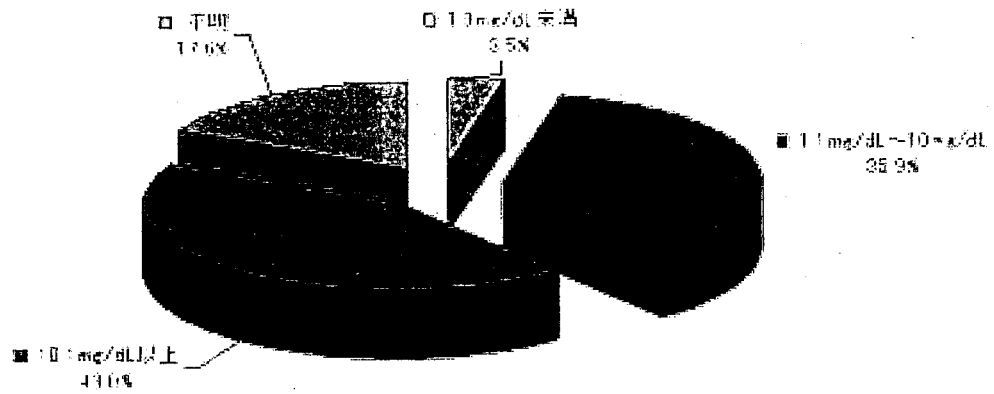


PRSP罹患者数のCRP値分布

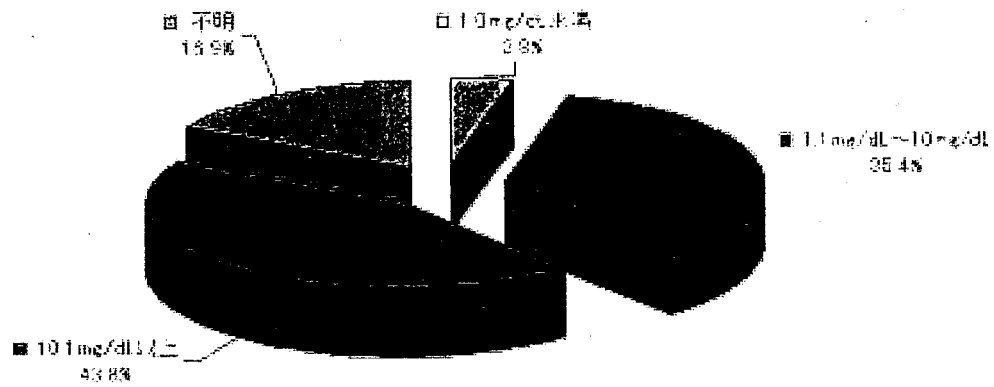


その他

その他感染症患者数のCRP値分布



その他罹患患者数のCRP値分布



◀ 表紙・1・2・3・4 ▶

【全入院患者サーベイランスの目的】

院内感染対策サーベイランスの一環として、全国の200床以上の病院のうち本サーベイランスの趣旨に賛同して参加を希望した医療機関の協力を得て、院内感染対策に問題となりうる薬剤耐性菌による感染症患者の発生動向等のデータの提供を受け、患者の基礎疾患その他の背景因子、関連因子等を解析した結果を参加医療機関に還元し、また解析結果の要点を広く一般に公開することにより、全国の医療機関において実施されている院内感染対策を支援することを目的とする。

調査対象菌種としてMRSA、PRSP、メタローβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌、多剤耐性緑膿菌、VRE、VRSA、その他危険と思われる薬剤耐性菌を選び、これらの耐性菌による感染患者情報を収集し、データの集計・解析を行い、季報・年報として要点を公表する。季報としては以下の内容を公表する。

【解説】

今回の季報(2007年4-6月)における調査参加施設数は65施設で、調査対象となった総入院患者数は151,798であった。そのなかで薬剤耐性菌による感染症を引き起こした患者数は858名であった。(前期*,***名)

各月毎に感染症に罹っている患者数を各月の総入院患者数で除したものをその月の感染率(%)として表し、その月に新たに感染症に罹患した患者数の割合を罹患率(%)として表した。3ヶ月間の感染率は5.65%、罹患率は5.23%であった。(前期 感染率*,**%, 罹患率*,**%)

薬剤耐性菌による感染症の89.39%はMRSA感染症(前期**,**%)であり、次いでPRSP感染症は5.83%(前期*,**%)であった。多剤耐性緑膿菌による感染症は0.93%(前期*,**%)であった。VRE感染症の報告はなかった。MRSA感染症の44.46%は肺炎であり、次いで手術創感染(12.78%)、菌血症(10.95%)、消化器系感染症(6.91%)、皮膚・軟部組織感染症(6.39%)、尿路感染症(4.82%)の順であった。MRSA感染症に感染した患者の基礎疾患は、循環器系疾患(19.84%)が最も多く、次いで悪性腫瘍(17.35%)、呼吸器系疾患(12.36%)、消化器系疾患(11.68%)、神経系疾患(9.18%)、内分泌代謝疾患(7.48%)の順であった。診療科別では、内科系が49.54%、外科系が49.67%であった。

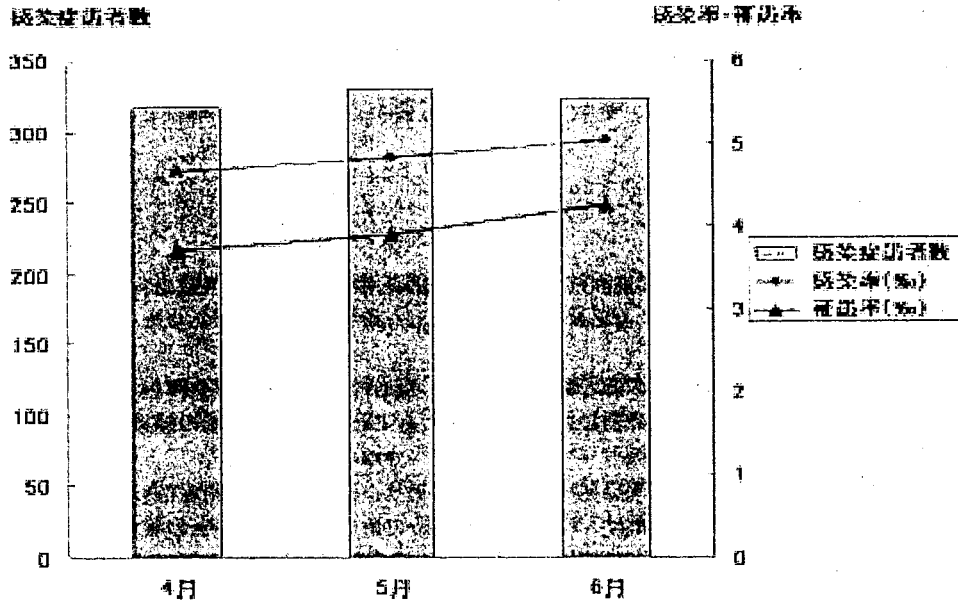
MRSA感染症患者の体温分布では37.1℃以上～38.9℃未満が50.85%を占め、39.0℃以上(18.12%)を加えると37.1℃以上が68.97%であった。白血球数分布では10,001/μL以上が49.02%、CRP値分布では1.1mg/dL以上～10.0mg/dL未満が37.29%、10.1mg/dL以上が39.50%であった。

- 表1. 感染率及び罹患率の推移
- 表2. 薬剤耐性菌別感染症患者数
- 表3. MRSA感染症の感染症名内訳
- 表4. MRSA感染症の基礎疾患名内訳
- 表5. MRSA感染症の診療科内訳
- 表6. MRSA感染症患者の体温分布
- 表7. MRSA感染症患者の白血球数分布
- 表8. MRSA感染症患者のCRP値分布

なお、集計不能なデータを除いたため、表によって計が異なる場合があります。

表1. 感染率及び罹患率の推移

	4月	5月	6月	計
感染症患者数	317	330	323	858
新規感染症患者数	253	267	274	794
総入院患者数	68,054	68,376	64,174	151,798
感染率(%)	4.66	4.83	5.03	5.65
罹患率(%)	3.72	3.91	4.27	5.23
参加施設数	65	64	62	



感染症患者数：調査対象とした薬剤耐性菌による感染症患者の数

総入院患者数＝前月からの繰越患者数＋新入院患者数

新規感染症患者数＝新規の感染症患者の数（-罹患患者数）

継続感染症患者数＝先月から継続している感染症患者の数

感染率(%)＝(感染症患者数)÷(総入院患者数)×1000

罹患率(%)＝(新規感染症患者数)÷(総入院患者数-継続感染症患者数)×1000

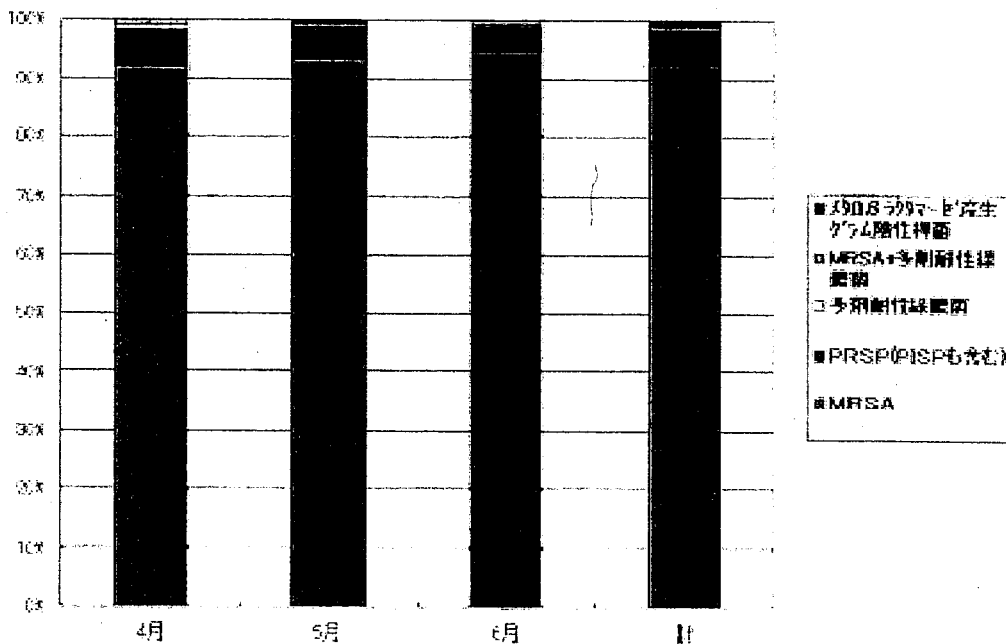
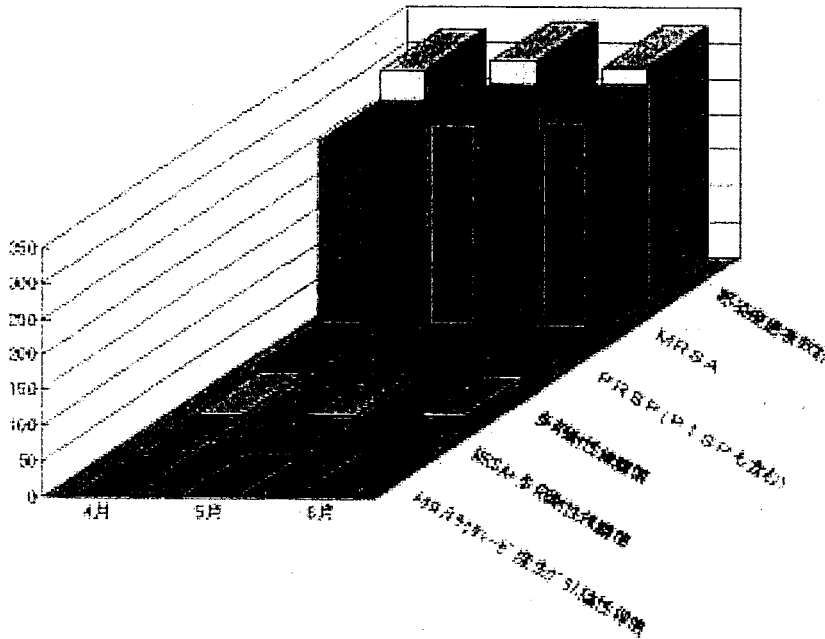
注(1)：表の「計」は感染症患者数、新規感染症患者数、総入院患者数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。感染率、罹患率はこれらに基づいて算出してしています。

注(2)：参加施設数が月によって異なっています。

表2. 薬剤耐性菌別感染症患者数

薬剤耐性菌名	4月	5月	6月	計
MRSA	275 (86.75%)	299 (90.61%)	301 (93.19%)	767 (89.39%)
MRSA+多剤耐性緑膿菌	3 (0.95%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	3 (0.35%)
多剤耐性緑膿菌	3 (0.95%)	3 (0.91%)	2 (0.62%)	8 (0.93%)
PRSP (PISPも含む)	18 (5.68%)	17 (5.15%)	15 (4.64%)	50 (5.83%)
メロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌	0 (0.00%)	2 (0.61%)	1 (0.31%)	3 (0.35%)
MRSA+メロβラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
その他	18 (5.68%)	9 (2.73%)	4 (1.20%)	27 (3.15%)
感染症患者数計	317 (100.00%)	330 (100.00%)	323 (100.00%)	858 (100.00%)
参加施設数	65	64	62	

注: 「計」は薬剤耐性菌別感染症患者数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。



4 5 6 計

表3. MRSA感染症の感染症名内訳

感染症名	4月	5月	6月	計
尿路感染症	10(3.64%)	13(4.35%)	14(4.65%)	37(4.82%)
肺炎	129(46.91%)	124(41.47%)	139(46.18%)	341(44.46%)
肺炎以外の呼吸器感染症	6(2.18%)	11(3.68%)	10(3.32%)	25(3.26%)
消化器系感染症	17(6.18%)	25(8.36%)	15(4.98%)	53(6.91%)
中枢神経系感染症	3(1.09%)	2(0.67%)	0(0.00%)	5(0.65%)
皮膚・軟部組織感染症	12(4.36%)	22(7.36%)	23(7.64%)	49(6.39%)
手術創感染	32(11.64%)	43(14.38%)	41(13.62%)	98(12.78%)
菌血症	35(12.73%)	35(11.71%)	31(10.30%)	84(10.95%)
その他の感染症	31(11.27%)	24(8.03%)	28(9.30%)	75(9.78%)
計	275(100.00%)	299(100.00%)	301(100.00%)	767(100.00%)

注：(1)「計」はMRSA感染症の感染症名の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。
 注：(2)MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

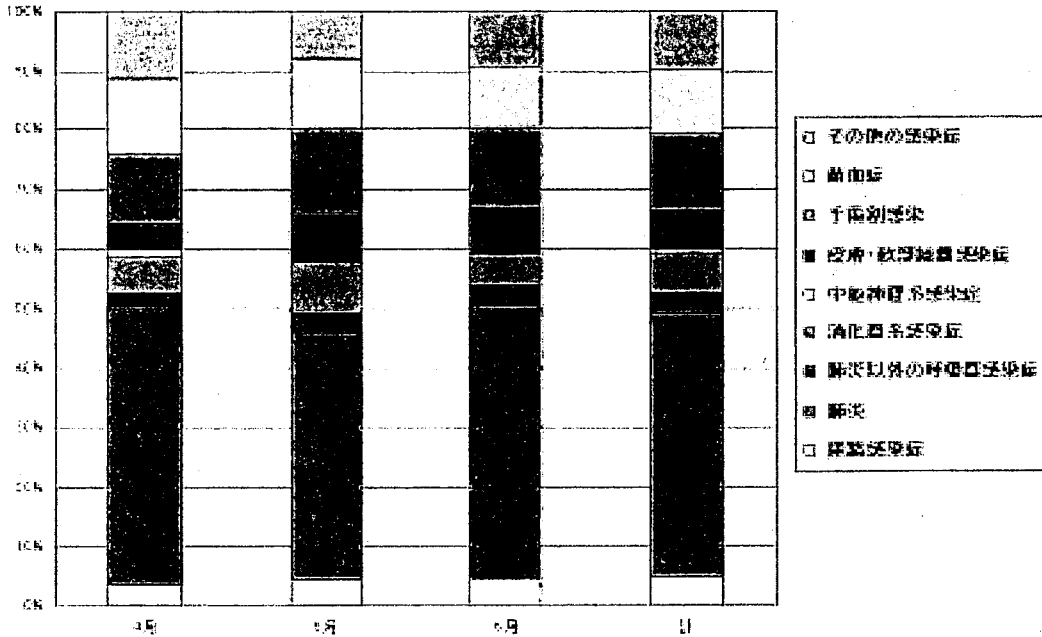
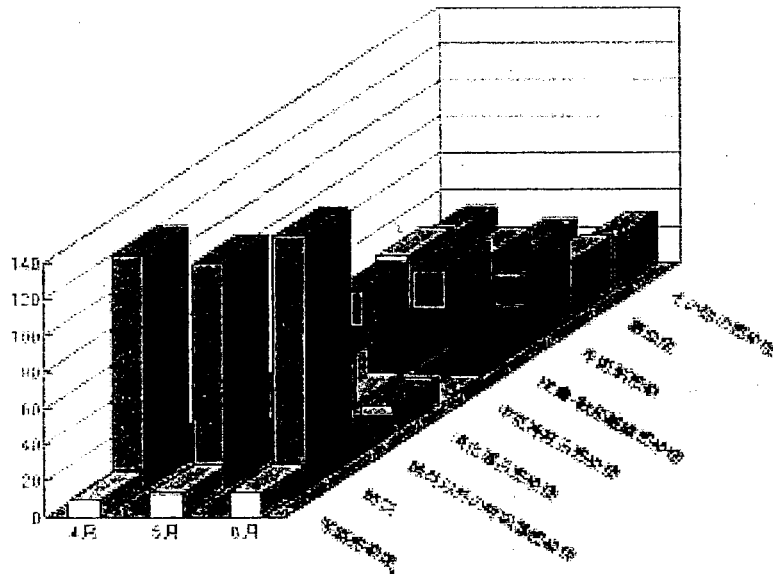


表4. MRSA感染症の基礎疾患名内訳

基礎疾患名	4月	5月	6月	計
悪性腫瘍	50(15.58%)	56(14.70%)	61(19.12%)	153(17.35%)
尿路系疾患	23(7.17%)	29(7.61%)	10(3.13%)	52(5.90%)
呼吸器系疾患	41(12.77%)	45(11.81%)	45(14.11%)	109(12.36%)
循環器系疾患	69(21.50%)	68(17.85%)	66(20.69%)	175(19.84%)
消化器系疾患	35(10.90%)	52(13.65%)	38(11.91%)	103(11.68%)
神経系疾患	32(9.97%)	39(10.24%)	19(5.96%)	81(9.18%)
精神系疾患	4(1.25%)	9(2.36%)	9(2.82%)	18(2.04%)
内分泌代謝疾患	21(6.54%)	41(10.76%)	21(6.58%)	66(7.48%)
自己免疫疾患	6(1.87%)	6(1.57%)	8(2.51%)	16(1.81%)
その他の疾患	40(12.46%)	36(9.45%)	42(13.17%)	109(12.36%)
計	321(100.00%)	381(100.00%)	319(100.00%)	882(100.00%)

注：(1) 1患者の基礎疾患名に重複があるために、件数は患者数より多くなっています。
 注：(2) 基礎疾患名別の統計情報の収集が行われていないので、基礎疾患名別の感染率は表示できません。
 注：(3) 「計」はMRSA感染症の基礎疾患名の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。
 注：(4) MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

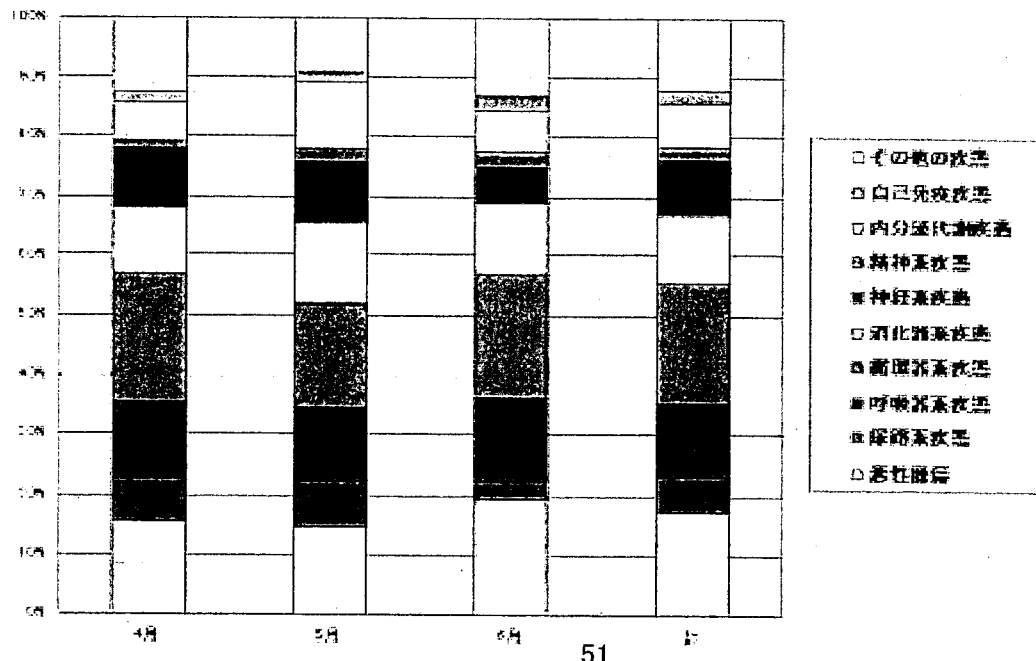
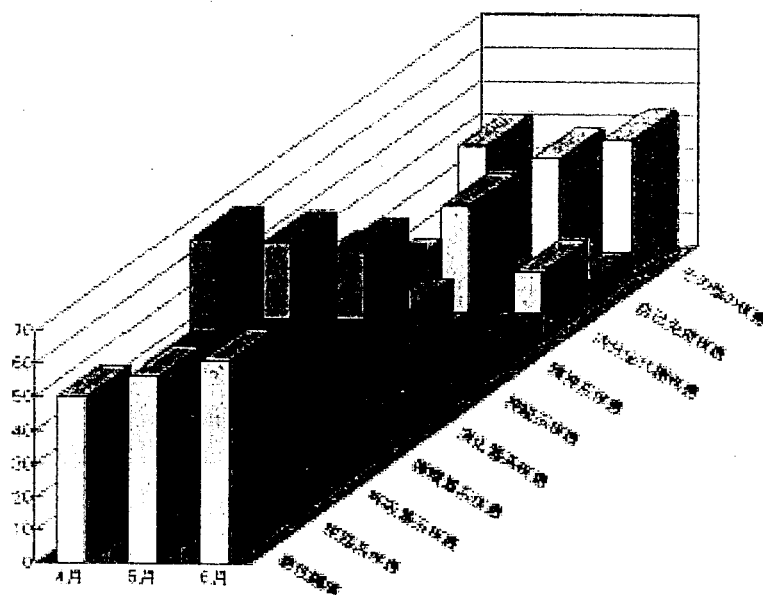
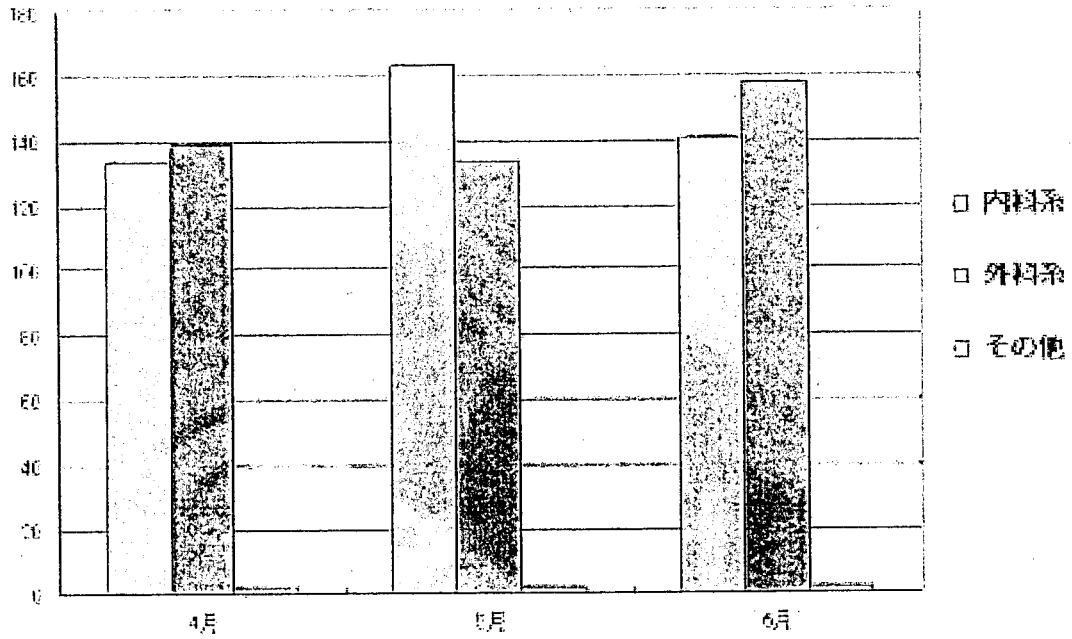
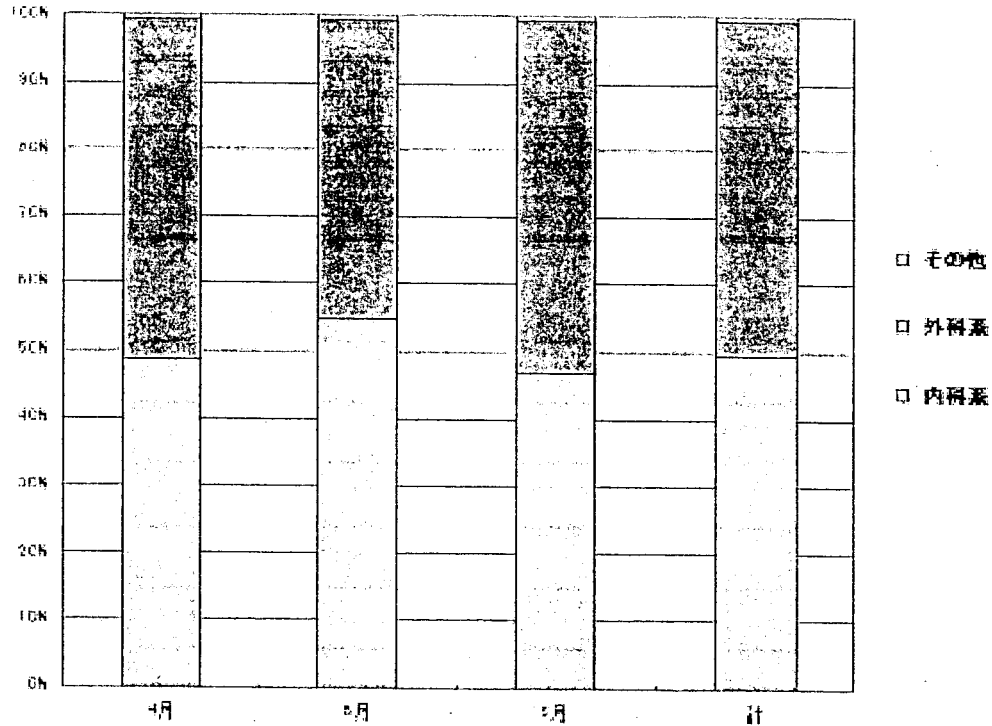


表5. MRSA感染症の診療科内訳

診療科	4月	5月	6月	計
内科系	134 (48.73%)	163 (54.52%)	141 (46.84%)	380 (49.54%)
外科系	139 (50.55%)	134 (44.82%)	158 (52.49%)	381 (49.67%)
その他	2 (0.73%)	2 (0.67%)	2 (0.66%)	6 (0.78%)
計	275 (100.00%)	299 (100.00%)	301 (100.00%)	767 (100.00%)

感染者数





内科系:内科、循環器科、神経内科、呼吸器科、消化器科、小児科、心療内科、神経科、精神科、放射線科、麻酔科、リウマチ科、胃腸科、アレルギー科

外科系:外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、産婦人科、産科、婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、皮膚泌尿器科、脳神経外科、形成外科、歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科、気管食道科、美容外科、肛門科

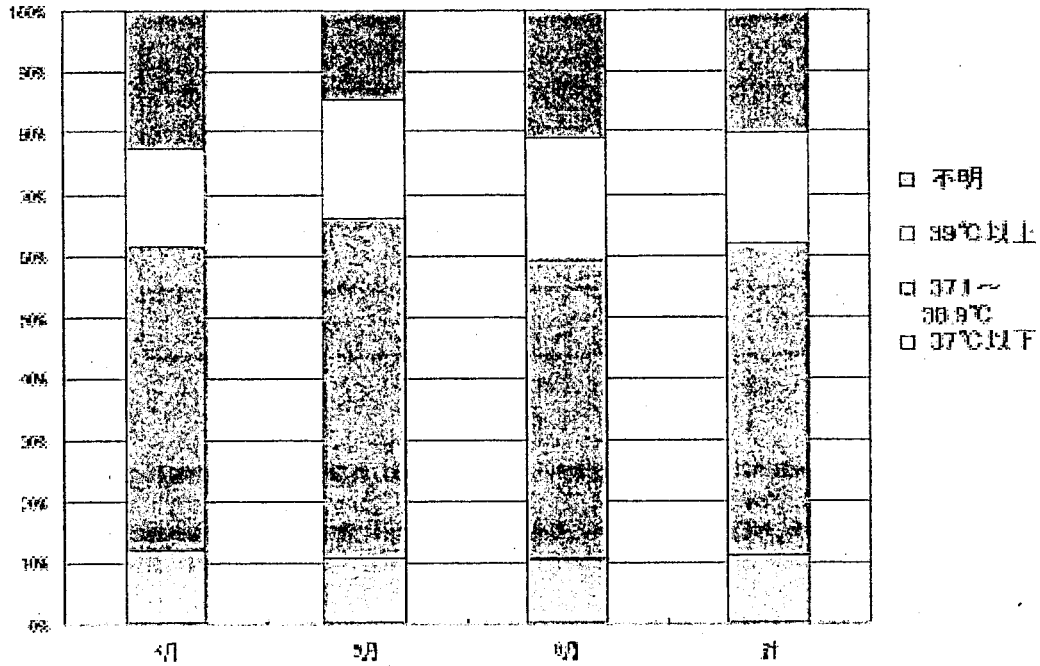
その他:性病科、リハビリテーション科、その他

注:(1)「計」はMRSA感染症の診療科名の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。

注:(2) MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

表6. MRSA感染症患者の体温分布

体温	4月	5月	6月	計
37℃以下	33 (12.00%)	32 (10.70%)	32 (10.63%)	84 (10.95%)
37.1～38.9℃	136 (49.45%)	166 (55.52%)	147 (48.84%)	390 (50.85%)
39℃以上	44 (16.00%)	57 (19.06%)	59 (19.60%)	139 (18.12%)
不明	62 (22.55%)	44 (14.72%)	63 (20.93%)	154 (20.08%)
計	275 (100.00%)	299 (100.00%)	301 (100.00%)	767 (100.00%)

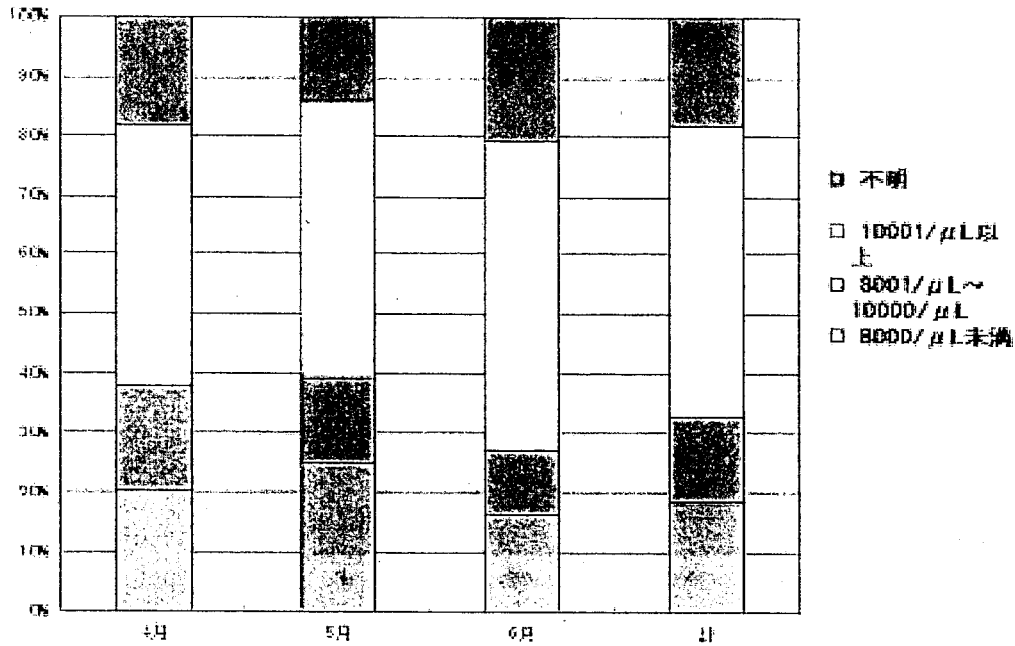


注:(1)「計」はMRSA感染症の体温の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。
 注:(2)MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

◀ 2007年1・2・3・4月 ▶

表7. MRSA感染症患者の白血球数分布

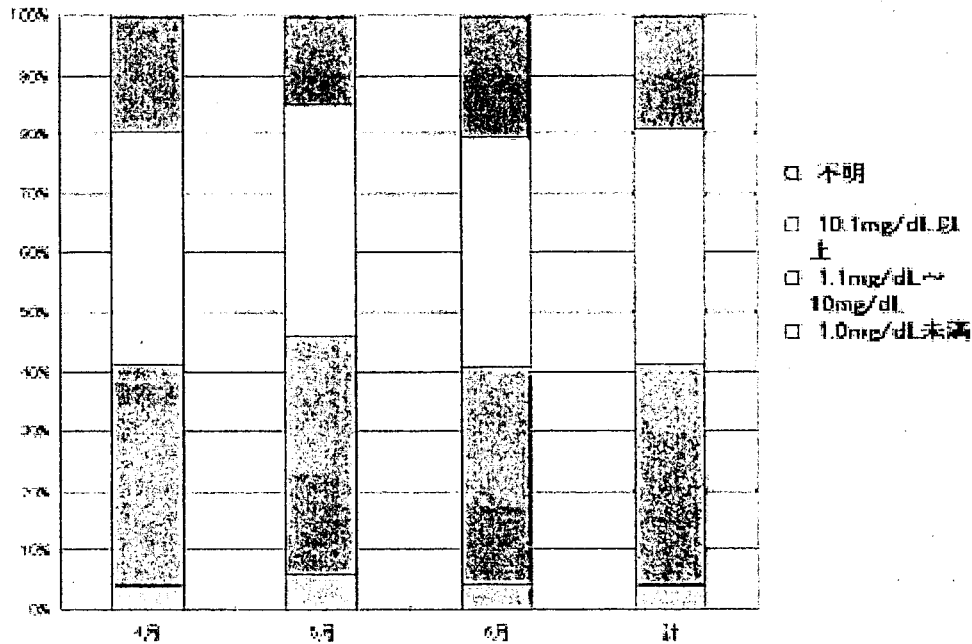
	4月	5月	6月	計
8000/ μ L未満	56(20.36%)	75(25.08%)	50(16.61%)	142(18.51%)
8001/ μ L~10000/ μ L	49(17.82%)	43(14.38%)	32(10.63%)	109(14.21%)
10001/ μ L以上	120(43.64%)	139(46.49%)	157(52.16%)	376(49.02%)
不明	50(18.18%)	42(14.05%)	62(20.60%)	140(18.25%)
計	275(100.00%)	299(100.00%)	301(100.00%)	767(100.00%)



注：(1) 「計」はMRSA感染症の白血球の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。
 注：(2) MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロ β ラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

表8. MRSA感染症患者のCRP値分布

CRP値	4月	5月	6月	計
1.0mg/dL未満	11 (4.00%)	18 (6.02%)	13 (4.32%)	31 (4.04%)
1.1mg/dL～10mg/dL	103 (37.45%)	120 (40.13%)	110 (36.54%)	286 (37.29%)
10.1mg/dL以上	107 (38.91%)	116 (38.80%)	116 (38.54%)	303 (39.50%)
不明	54 (19.64%)	45 (15.05%)	62 (20.60%)	147 (19.17%)
計	275 (100.00%)	299 (100.00%)	301 (100.00%)	767 (100.00%)



注：(1) 「計」はMRSA感染症のCRP値の報告数を3ヶ月で算出したものであり、単純に3ヶ月を合計したものではありません。
 注：(2) MRSA感染症の集計はMRSAと多剤耐性緑膿菌の重複感染症およびMRSAとメタロβラクタマーゼ産生グラム陰性菌の重複感染症を除いています。

図表 1・2・3・4

正しい年間感染率・罹患率の計算方法

報告年月	前日継続患者数	新入院患者数	新規感染症患者数	継続感染症患者数
2007年12月	38	77	3	2
2008年2月	182	55	10	0
2008年3月	164	65	10	0
2008年4月	150	69	10	0
2008年5月	142	71	10	0
2008年6月	141	56	10	0
2008年7月	132	57	12	0
2008年8月	136	58	12	1
2008年9月	138	52	11	0
2008年10月	132	52	10	0
2008年11月	141	57	10	0
2008年12月	136	57	10	0

総入院患者数=2007年12月からの繰越患者数+2008年1月～12月の新入院患者数の合計

$$138+77+55+50+69+\dots=854$$

感染症患者数:調査対象とした薬剤耐性菌による感染症患者の数(新規感染症患者数+継続感染症患者数)

$$(3+2)+0+0+1+\dots=10$$

新規感染症患者数(罹患患者)=新規の感染症患者の数

$$3+0+0+1+0+0+2+1+\dots=8$$

継続感染症患者数=2007年12月から継続している感染症患者の数

$$2$$

年間感染率(‰)=[(感染症患者数)÷(総入院患者数)]×1000

$$11.71 \div 10 \div 854 \times 1000$$

年間罹患率(‰)=[(新規感染症患者数)÷(総入院患者数-継続感染症患者数)]×1000

$$9.39 \div 8 \div (854-2) \times 1000$$

院内感染対策サーベイランス事業 全入院部門

月報表1 薬剤耐性菌感染症患者数および感染率・罹患率の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総入院患者数												
感染症患者数												
新規感染症患者数												
継続感染症患者数												
薬剤耐性菌												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性白色ブドウ球菌												
メチシリン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性白色ブドウ球菌												
感染率(‰)												
新規感染率(‰)												
継続感染率(‰)												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性白色ブドウ球菌												
メチシリン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性白色ブドウ球菌												

総入院患者数=先月からの繰越患者数+新入院患者数
 感染症患者数:調査対象とした薬剤耐性菌による感染症患者の数(継続感染症患者数+新規感染症患者数)
 新規感染症患者数(罹患患者)=新規の感染症患者の数
 継続感染症患者数=先月から継続している感染症患者の数
 感染率(‰)=[(感染症患者数)÷(総入院患者数)]×1000
 罹患率(‰)=[(新規感染症患者数)÷(総入院患者数-継続感染症患者数)]×1000

誤った年間感染率・罹患率の計算方法(旧システム)

報告年月	前月繰越患者数	新入院患者数	新規感染症患者数	継続感染症患者数
2007年12月	138	77	3	0
2008年1月	162	55	0	1
2008年2月	164	50	0	0
2008年3月	150	68	0	0
2008年4月	142	71	0	0
2008年5月	141	59	0	0
2008年6月	132	62	2	0
2008年7月	136	68	1	0
2008年8月	138	42	0	0
2008年9月	132	62	0	0
2008年10月	141	57	0	0
2008年11月	138	47	0	0
2008年12月				

総入院患者数=2007年12月からの繰越患者数+2008年1月~12月の新入院患者数の合計

$$138+77+162+55+164+50+\dots=2428$$

感染症患者数:調査対象とした薬剤耐性菌による感染症者の数(新規感染症患者数+継続感染症患者数)

$$(3+2)+(0+1)+(0+0)+(1+0)+\dots=12$$

新規感染症患者数(罹患患者)=2008年1月~12月の新規感染症患者数の合計

$$3+0+0+1+0+0+2+1+\dots=8$$

継続感染症患者数=2008年1月~12月の継続感染症患者数の合計

$$2+1+0+0+0+0+0+1+\dots=4$$

継続感染症患者数=2007年12月からの継続感染症患者数(ここではこの数字は使用していない)

2

感染率(%)=[(感染症患者数)÷(総入院患者数)]×1000

$$4.94 \div 12 \div 2428 \times 1000$$

罹患率(%)=[(新規感染症患者数)÷(総入院患者数-継続感染症患者数)]×1000

$$3.30 \div [8 \div (2428-4)] \times 1000$$

院内感染対策サーベイランス事業 全入院部門

月報表1 薬剤耐性菌感染症患者数および感染率・罹患率の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総入院患者数												
感染症患者数												
新規感染症患者数												
継続感染症患者数												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌												
多剤耐性緑膿菌												
ペニシリン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌												
多剤耐性緑膿菌												
ペニシリン耐性黄色ブドウ球菌												
バンコマイシン耐性緑膿菌												
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌												
感染率(%)												
罹患率(%)												

総入院患者数=先月からの繰越患者数+新入院患者数
 感染症患者数=調査対象とした薬剤耐性菌による感染症者の数(新規感染症患者数+継続感染症患者数)
 新規感染症患者数(罹患患者)=新規の継続感染症者の数
 継続感染症患者数=先月から継続している感染症者の数
 感染率(%)=[(感染症患者数)÷(総入院患者数)]×1000
 罹患率(%)=[(新規感染症患者数)÷(総入院患者数-継続感染症患者数)]×1000

院内感染対策サーベイランス実施マニュアル新旧対照表

	旧 (2008年11月改訂版)	新
3頁、下から10行目	季報	半期・四半期
6頁、上から12行目	感染症発症患者	感染症患者
8頁、上から13行目	入力された全データを対象として	患者の入室日を基準として1月～12月分は
8頁、下から12行目	運営委員会は、	トル
8頁、下から5行目	運営委員会での決定に基づき	トル
8頁、下から4行目	除外することができる。	除外することができる。この場合、その実施内容および削除することとした理由等について運営委員会で報告することとする。
8頁、下から1行目	集計・解析の項目は、別添「院内感染対策サーベイランス解析評価情報一覧」に示す。	トル
9頁、上から7行目	季報	半期・四半期
9頁、下から10行目	所定の様式に沿って必要事項を記入の上、 janis_query@nih.go.jp 宛てに電子メールを送付する。	院内感染対策サーベイランスホームページの「お問い合わせ」より連絡する。
9頁、下から7行目	janis_query@nih.go.jp 宛てに電子メールにて行う。	院内感染対策サーベイランスホームページの「お問い合わせ」より連絡する。
9頁、下から7行目	問い合わせ時には、医療機関名、参加部門及び責任者を明記する。	トル
10頁、上から13行目	8-4 データベースの研究利用	8-4 サーベイランスデータの研究利用
10頁、上から14～17行目	8-4-1 参加医療機関による自施設データの使用 参加医療機関は、院内感染の要因分析等、有効かつ効率的な院内感染対策の実施に寄与する研究又は教育に必要な場合、所定の申請書を提出し、自施設のサーベイランスデータをデータベースより抽	トル

	出し、使用することができる。	
10 頁、上から 18～32 行目	<p>8-4-2 参加医療機関により構成される研究班のデータベースの利用</p> <p>参加医療機関により構成される研究班は、サーベイランスシステムの改善や院内感染の要因分析に関する研究等を目的として、データベースより複数の医療機関のサーベイランスデータを抽出し、使用することができる。この場合、下記の手続をとることとする。</p> <p>(ア)研究班の代表者は、データを提供する協力医療機関を公募、協力依頼する。</p> <p>(イ)協力依頼書には研究代表者名、研究目的、提供データの内容(部門、項目、期間)を明記する。</p> <p>(ウ)協力医療機関は、病院長名で承諾書を研究班に提出する。</p> <p>(エ)研究班は、承諾書を取りまとめた上で、指導課に所定の申請書によりデータ使用申請をする。</p> <p>(オ)運営委員会は、申請書を審査した上で、データ管理委託業者に指示し研究班に対してデータを提供する。</p> <p>(カ)研究班は、研究成果を公表する前に、厚生労働省および協力医療機関に公表内容等を報告する。</p>	<p>8-4-1 サーベイランスデータの研究利用</p> <p>本サーベイランスシステムの改善や院内感染の要因分析に関する研究等、公益性のある研究計画が統計法 33 条に基づき承認された場合は、データベースより参加医療機関のサーベイランスデータが抽出され、研究利用されることがある。</p> <p>本サーベイランスデータの研究利用申請を行う者は、統計法 33 条に基づく手続きをとるにあたり、事前に院内感染対策サーベイランスホームページの「お問い合わせ」より指導課まで連絡する。</p>
11 頁、上から 1 行目	8-4-3 免責事項等	8-4-2 免責事項等
11 頁、上から 2 行目	データベースのデータ	サーベイランスデータ
11 頁、上から 2 行目	参加医療機関や研究班等が実施した	実施された

院内感染対策サーベイランス実施マニュアル

平成20年11月

厚生労働省医政局指導課

1 院内感染対策サーベイランスの目的等

1-1 院内感染対策サーベイランスの趣旨及び目的

院内感染対策サーベイランス事業（以下「本サーベイランス」という。）については、平成12年から、本サーベイランスの趣旨に賛同して参加を希望した医療機関（以下「参加医療機関」という。）の協力を得て、医療機関における院内感染対策を支援するため実施されてきたところである。

平成18年6月に「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、平成19年4月より医療法第6条の10に基づき、安全管理や院内感染対策のための体制整備がすべての医療機関に義務づけられることとなった。

本サーベイランスは、各医療機関内において実施される感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善方策を支援するため、全国の医療機関における院内感染の発生状況、薬剤耐性菌の分離状況及び薬剤耐性菌による感染症の発生状況等に関する情報を提供することを目的として実施するものである。

1-2 各部門における本サーベイランスの目的

1-2-1 検査部門

細菌検査により各種検体から検出される主要な細菌の分離頻度およびその抗菌薬感受性を継続的に収集・解析し、医療機関における主要菌種・主要な薬剤耐性菌の分離状況を明らかにする。

1-2-2 全入院患者部門

全入院患者を対象とし、主要な薬剤耐性菌*による感染症患者の発生率に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における薬剤耐性菌による感染症の発生状況を明らかにする。

*対象とする薬剤耐性菌

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）

多剤耐性緑膿菌（MDRP）

ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）

1-2-3 手術部位感染（SSI）部門

術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関におけるSSIの発生状況を明らかにする。

1-2-4 集中治療室（ICU）部門

集中治療室（ICU）で発生する3種類の院内感染症（人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染症及び尿路感染症）の発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、ICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにする。

1-2-5 新生児集中治療室（NICU）部門

新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにする。

2 院内感染対策サーベイランスの実施体制

2-1 実施主体

実施主体は国とする。ただし、その業務の一部を適当な者に委託する。

2-2 実施体制

2-2-1 厚生労働省医政局指導課

厚生労働省医政局指導課（以下「指導課」という。）は、参加医療機関より提出されたデータを集計し、解析評価を加えた情報を参加医療機関に定期的に還元する。また院内感染対策に関する学識経験者からなる院内感染対策サーベイランス運営委員会を組織する。

2-2-2 院内感染対策サーベイランス運営委員会

院内感染対策サーベイランス運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、本サーベイランスの適切な運営を図るため、指導課に対して参加医療機関より提出されたデータの精査や一般公開用の季報及び年報等の作成の支援、本サーベイランスシステム改善のための助言を行う。また、参加医療機関に対しては必要に応じて院内感染対策に関する支援を行う。

運営委員会の要綱は別途定める。

2-2-3 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、解析評価において、指導課及び運営委員会に対し、専門的な見地から助言および支援を行う。

2-2-4 参加医療機関

参加医療機関は定められたデータの提出を行い、また、本サーベイランスにより還元のあった解析評価情報を基に、当該医療機関における院内感染対策の推進を図る。

3 サーベイランスへの参加と脱退

3-1 参加医療機関の募集

指導課は、参加医療機関（当分の間、原則として200床以上の病院に限る。）を、都道府県を通じて募集する。募集は、原則として年に1回行う。

200床未満の医療機関に関しては、適切な体制が取れることを前提とし、「3-6 参加医療機関の登録抹消」に掲げる①及び②の要件に該当した場合は運営委員会での協議を経ることなく参加登録を抹消するという条件の下、本サーベイランスへの参加を受け付けることができる。

3-2 医療機関の参加登録

医療機関は、参加申込書（様式1）に必要事項を記入し、都道府県を通じて指導課に登録する。

なお、本サーベイランスの実施形態は、以下の（1）から（5）であり、参加医療機関は、参加を希望するそれぞれについて登録を行う。

- （1）検査部門サーベイランス
- （2）全入院患者部門サーベイランス
- （3）手術部位感染（SSI）部門サーベイランス
- （4）集中治療室（ICU）部門サーベイランス
- （5）新生児集中治療室（NICU）部門サーベイランス

3-2-1 責任者等

3-2-1-1 責任者

参加医療機関は、本サーベイランス各部門（1-2参照）の責任者を選任する。各部門の責任者は、提出したサーベイランスデータの精度・内容・管理に関する最終的な責務を負うこととする。

3-2-1-2 実務担当者

参加医療機関は、各部門の責任者の指示の下、サーベイランスデータの管理、入力及び提出等の実務を行なう担当者を選任する。責任者と兼ねることも可とする。

3-2-1-3 責任者又は実務担当者の変更

異動等の理由により、責任者又は実務担当者が変更した場合、参加医療機関は速やかに後任を選任しなければならない。

3-3 医療機関コード及びパスワード

指導課は、参加医療機関ごとに医療機関コードを定める。参加医療機関は、この医療機関コードを基に、パスワードを登録し、院内感染対策サーベイランスホームページより参加医療機関専用ページにログインする。複数の部門に参加している場合、医

療機関コードは共通、パスワードは部門別に設定する。

3-4 届出内容の変更手続

参加医療機関は、登録した医療機関名、病院長名、住所又は医療機関名の公表・非公表の希望に変更があったときは、速やかに登録内容変更届（様式2）を指導課に郵送にて提出する。

参加医療機関は、病床数、責任者又は実務担当者の登録内容に変更があったときは、速やかにホームページ上の参加医療機関専用ページの施設情報設定より変更する。

3-5 参加医療機関の脱退

本サーベイランスからの脱退を希望する参加医療機関は、病院長名で指導課長に対して、脱退届（様式3）を郵送にて提出する。

3-6 参加医療機関の登録抹消

参加医療機関からのデータの提出が下記に該当する場合、指導課は運営委員会で協議の上、参加登録を抹消することができる。

- ① 検査部門、全入院患者部門においては、3ヶ月以上継続してデータの提出がない。
- ② SSI 部門、ICU 部門、NICU 部門においては、2回以上継続してデータの提出がない。

なお、提出されたデータの10%以上が必須項目を満たしていない等の理由で受理されなかった場合は未提出とみなす。

3-7 脱退・登録抹消に伴うパスワードの無効化

参加医療機関の脱退又は登録抹消に伴い、脱退・登録抹消部門へのログインパスワードは無効となる。

3-8 参加医療機関の公表

参加医療機関の名称及び参加部門は、原則としてホームページ上で公表する。ただし、医療機関名の公表を希望しない場合は、その旨を参加登録時に申請することができ、相応する医療機関数のみを掲載する。

[登録内容変更届・脱退届の郵送先]

〒100-8916

東京都千代田区霞ヶ関1-2-2

厚生労働省医政局指導課

院内感染対策サーベイランス担当

4 サーベイランスデータの収集

4-1 検査部門

4-1-1 提出データ

培養陰性検体の情報も含めた細菌検査に関わる全データ。

4-1-2 データ収集方法

診療等を目的に提出された細菌検査に関わるデータを管理している細菌検査装置・細菌検査システム等からデータを抽出する。抽出時に提出用の共通フォーマットに変換されることが望ましい。ただし、必須提出項目を充たしていること。

4-2 全入院患者部門

4-2-1 提出データ

- ① 入院患者数 : 新規入院患者数、前月繰越入院患者数
- ② 感染症発症患者 : 患者識別番号、生年月日、性別、薬剤耐性菌名、感染症名、検体名、新規・継続の区別、入院日、検査日、診療科、病棟

4-2-2 データ収集方法

- ① 定期的に細菌検査室からの薬剤耐性菌検出者リストに基づいてサーベイランスシートを作成する。サーベイランスシートは、必須提出項目を収集可能なように、各参加医療機関がサーベイランス体制に応じて作成する。
- ② 薬剤耐性が検出された患者について、診療録や患者診察等から感染症か保菌か判定する。感染症の判定は、原則として患者担当医（主治医）以外のサーベイランス担当の医師が行う。
- ③ 感染症と判定された患者のデータを診療録等から収集する。
- ④ 入院患者数については、医事課など担当部署より入手する。

4-3 手術部位感染部門

4-3-1 サーベイランス対象とする種類の手術の選定

参加医療機関は、サーベイランスの対象とする手術の種類を選定する。選定した手術の種類は、原則としてサーベイランス開始から提出までの6ヶ月間は変更しない。

4-3-2 提出データ

- ① 選定した種類に該当する全手術症例 : 患者識別番号、年齢、性別、手術の種類、手術年月日、手術時間、術野汚染度、ASA（アメリカ麻酔科医学会）スコア、全身麻酔・緊急手術・外傷・埋入物・内視鏡使用・合併手術・人工肛門造設・日帰り手術・手術部位感染（SSI）発生の有無
- ② 選定した種類に該当する手術のSSI症例 : SSI発生年月日、感染部位、診断時期、臨床検体採取部位、分離菌、二次的血流感染・死亡の有無、SSIの臨床診断

4-3-3 データ収集方法

上記①に関するデータは、診療録から収集する。上記②に関するデータは、SSI 発生が疑われる症例に対し細菌検査を実施し、SSI 発生判定後速やかに診療録や患者診察等から収集する。ただし、必須提出項目を充たしていること。

4-4 集中治療室部門

4-4-1 提出データ

- ① 熱傷患者を除く全入室患者 : 患者識別番号、入室日時、退室日
- ② 熱傷患者を除く感染症発症患者 : ①に加えて感染症発症日、感染症の種類、感染症の原因菌、薬剤感受性試験結果

4-4-2 データ収集方法

各参加医療機関の状況に応じて作成した全入室患者のサーベイランスシートに基づいて必要な患者データを収集する。ただし、必須提出項目を充たしていること。

4-5 新生児集中治療室部門

4-5-1 提出データ

- ① 入室患児数 : 出生体重群別入室患児数
- ② 感染症発症患児 : 出生体重群・原因菌・感染症分類名
(出生体重群 : 1000g 未満、1000g-1499g、1500g 以上)
(原因菌 : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌・メチシリン感性黄色ブドウ球菌・コアグラウゼ陰性ブドウ球菌・緑膿菌・カンジダ属・その他・菌不明)
(感染症分類 : 敗血症・肺炎・髄膜炎・腸炎・皮膚炎・その他)

4-5-2 データ収集方法

サーベイランスシート等を用いて感染症患児のデータを随時収集する。ただし、必須提出項目を充たしていること。

5 データの提出

5-1 入力支援ソフト

参加医療機関が行う本サーベイランスのデータを提出フォーマットへ入力するための入力支援ソフトは、参加医療機関が院内感染対策サーベイランスホームページよりダウンロードする。参加医療機関は、本サーベイランスを円滑に実施すること以外の目的に、これを利用してはならないこととする。

また、参加医療機関は、入力支援ソフトの一部または全部を改変してはならないこととする。

指導課及び業務を受託した者は、入力支援ソフトが定める動作環境以外では正しく動作することを保証しない。

5-2 サーベイランスデータの提出

参加医療機関は、収集し所定のフォーマットに変換されたデータを院内感染対策サーベイランスホームページ内、参加医療機関専用ページより送信する。

5-2-1 提出頻度・期限

- ① 検査部門：検体提出日を基準として翌月15日を期限として毎月提出。
- ② 全入院患者部門：検査日を基準として翌月15日を期限として毎月提出。
- ③ 集中治療室部門：患者の退室日を基準として、1月～6月分は、8月末日を期限とし、7月～12月分は翌年2月末日を期限として半年（6ヶ月）毎に提出。
- ④ 手術部位感染部門：手術日を基準として1月～6月分は、8月末日を期限とし、7月～12月分は翌年2月末日を期限として半年（6ヶ月）毎に提出。
- ⑤ 新生児集中治療室部門：入力された全データを対象として翌年2月末日を期限とし、年1回提出。

5-3 データ提出状況確認票

運営委員会は、参加医療機関に対して、データ提出状況確認票を1年に1回発行する。

6 データの解析評価と還元

6-1 データの精度管理

6-1-1 提出データの内容確認

提出されたサーベイランスデータの整合性に疑義が生じた場合、運営委員会は、参加医療機関の各部門の責任者に対して提出されたデータの確認等を行うことがある。

6-1-2 データの再提出

参加医療機関は、提出されたデータに誤りがあった場合、データを再提出又は修正する。

6-1-3 集計からの除外

指導課は、本サーベイランスに係るデータの集計及び解析の信頼性を維持するため、運営委員会での決定に基づき、参加医療機関から提出を受けたデータの一部又は全部を集計から除外することができる。

6-2 データの集計と解析評価

指導課は、参加医療機関からのデータ提出を受け、データの集計・解析等を行う。集計・解析の項目は、別添「院内感染対策サーベイランス解析評価情報一覧」に示す。

運営委員会は、必要に応じて専門家等の意見を基に、集計・解析の項目の見直し、追加等の検討を行う。

6-3 解析評価情報の還元

指導課は、6-2により作成された解析評価情報を院内感染対策サーベイランスホームページ内の参加医療機関専用ページを通じて参加医療機関に還元する。

6-4 公開情報

指導課は、本サーベイランスの集計・解析評価情報を基に、一般公開用の季報及び年報を作成し、運営委員会での承認後、院内感染対策サーベイランスホームページ上に公開する。

7 解析評価情報の利用

7-1 参加医療機関

参加医療機関は、本サーベイランスの解析評価情報を院内感染対策の評価、推進及び改善方策に利用する。解析評価情報から、院内感染の集団発生事例が疑われる場合には、提出データ等を確認の上、「医療施設における院内感染の防止について」（平成17年2月1日付け医政指発第0201004号厚生労働省医政局指導課長通知）に記載のある通り、保健所等の行政機関に適時相談し、技術的支援を得るよう努めること。

7-2 支援の要請方法

参加医療機関は、院内感染対策に関する支援を運営委員会に求める場合、所定の様式に沿って必要事項を記入の上、janis_query@nih.go.jp宛てに電子メールを送付する。ただし、緊急を要する場合は、この限りではない。

7-3 その他、本サーベイランスに関する問い合わせ

本サーベイランスの実施に関する問い合わせ等は、janis_query@nih.go.jp宛てに電子メールにて行う。問い合わせ時には、医療機関名、参加部門及び責任者を明記する。

8 個人情報と院内感染対策サーベイランスのデータの取り扱い

8-1 個人情報について

参加医療機関は、本サーベイランスにデータを提出する際、任意の患者識別番号を割り振る等、個人を特定できないよう配慮すること。

8-2 サーベイランスデータの管理

8-2-1 データの保管・管理

本サーベイランスによって収集されたデータは、全てサーベイランス情報データベース（以下「データベース」という。）に集積され、本サーベイランス事業の実施の間、指導課が保管・管理する。指導課はデータベースの運営・管理について、その一部を適当な者に委託する。

8-2-2 データベース管理者

指導課よりデータベース管理を委託された者は、指導課からの指示においてのみサーベイランスデータをデータベースより抽出する。

8-3 サーベイランスデータの使用目的

本サーベイランスによって収集されたデータは、医療機関における院内感染対策を支援する等の目的以外には使用しない。

8-4 データベースの研究利用

8-4-1 参加医療機関による自施設データの使用

参加医療機関は、院内感染の要因分析等、有効かつ効率的な院内感染対策の実施に寄与する研究又は教育に必要な場合、所定の申請書を提出し、自施設のサーベイランスデータをデータベースより抽出し、使用することができる。

8-4-2 参加医療機関により構成される研究班のデータベースの利用

参加医療機関により構成される研究班は、サーベイランスシステムの改善や院内感染の要因分析に関する研究等を目的として、データベースより複数の医療機関のサーベイランスデータを抽出し、使用することができる。この場合、下記の手続をとることとする。

- (ア) 研究班の代表者は、データを提供する協力医療機関を公募、協力依頼する。
- (イ) 協力依頼書には研究代表者名、研究目的、提供データの内容（部門、項目、期間）を明記する。
- (ウ) 協力医療機関は、病院長名で承諾書を研究班に提出する。
- (エ) 研究班は、承諾書を取りまとめた上で、指導課に所定の申請書によりデータ使用申請をする。
- (オ) 運営委員会は、申請書を審査した上で、データ管理委託業者に指示し研究班に対してデータを提供する。
- (カ) 研究班は、研究成果を公表する前に、厚生労働省および協力医療機関に公表内容等を報告する。

8-4-3 免責事項等

データベースのデータの一部又は全部を用いて参加医療機関や研究班等が実施した研究等の内容について、指導課は責任を負わない。

9 その他

9-1 費用

参加医療機関における本サーベイランスへの参加に係る実費（入力に要する人件費、データ様式の変換や研究に伴うデータベースからのデータ抽出に要する費用、入力支援ソフトを動作させるためのハードウェアやソフトウェアの費用及び説明会等への参加旅費等）については、参加医療機関が負担することとする。

9-2 本マニュアルの改訂

9-2-1 改訂

指導課は、運営委員会での協議を経て、必要に応じて本マニュアルの一部又は全部を改訂する。

9-2-2 改訂の周知

指導課は、改訂後の本マニュアルを本サーベイランスのホームページで公開し、参加医療機関への周知を行う。

9-3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律との関係

本サーベイランスに係るデータの提出は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第104号）第12条から第14条に規定する届出ではない。

9-4 医療法との関係

本サーベイランスに係るデータの提出は医療法（昭和23年法律第205号）第25条に規定する報告の徴収ではない。

統計法(抜粋)

第三章 調査票情報等の利用及び提供

(調査票情報の二次利用)

第三十二条 行政機関の長又は届出独立行政法人等は、次に掲げる場合には、その行った統計調査に係る調査票情報を利用することができる。

- 一 統計の作成又は統計的研究(以下「統計の作成等」という。)を行う場合
- 二 統計を作成するための調査に係る名簿を作成する場合

(調査票情報の提供)

第三十三条 行政機関の長又は届出独立行政法人等は、次の各号に掲げる者が当該各号に定める行為を行う場合には、その行った統計調査に係る調査票情報を、これらの者に提供することができる。

- 一 行政機関等その他これに準ずる者として総務省令で定める者 統計の作成等又は統計を作成するための調査に係る名簿の作成
- 二 前号に掲げる者が行う統計の作成等と同等の公益性を有する統計の作成等として総務省令で定めるものを行う者 当該総務省令で定める統計の作成等

(委託による統計の作成等)

第三十四条 行政機関の長又は届出独立行政法人等は、その業務の遂行に支障のない範囲内において、学術研究の発展に資すると認める場合その他の総務省令で定める場合には、総務省令で定めるところにより、一般からの委託に応じ、その行った統計調査に係る調査票情報を利用して、統計の作成等を行うことができる。

(匿名データの作成)

第三十五条 行政機関の長又は届出独立行政法人等は、その行った統計調査に係る調査票情報を加工して、匿名データを作成することができる。

- 2 行政機関の長は、前項の規定により基幹統計調査に係る匿名データを作成しようとするときは、あらかじめ、統計委員会の意見を聴かなければならない。

(匿名データの提供)

第三十六条 行政機関の長又は届出独立行政法人等は、学術研究の発展に資すると認める場合その他の総務省令で定める場合には、総務省令で定めるところにより、一般からの求めに応じ、前条第一項の規定により作成した匿名データを提供することができる。

統計法施行規則(抜粋)

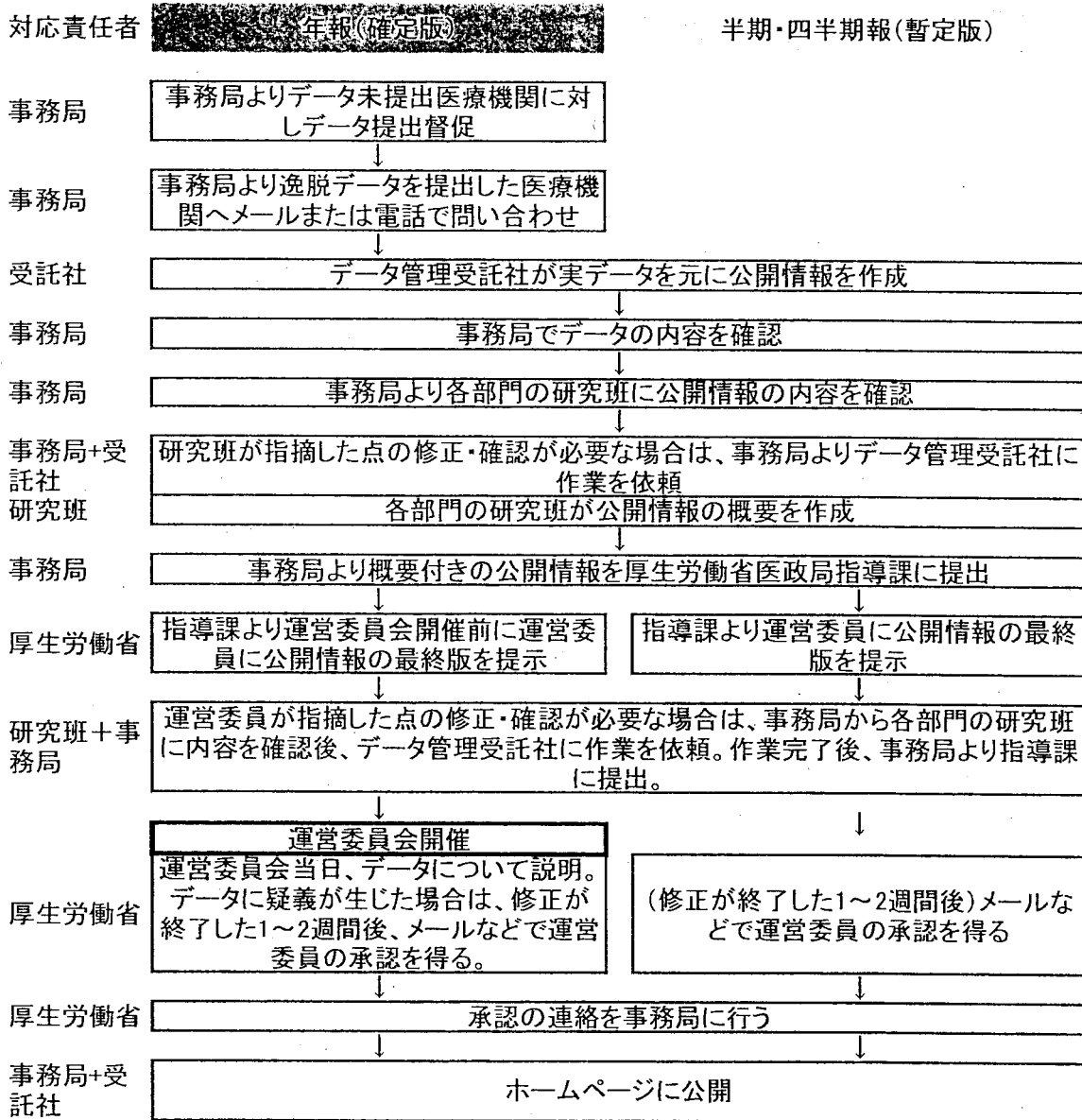
(調査票情報の提供を受けられることができる者)

第八条 法第三十三条第一号 の総務省令で定める者は、会計検査院、地方独立行政法人、地方住宅供給公社、地方道路公社及び土地開発公社とする。

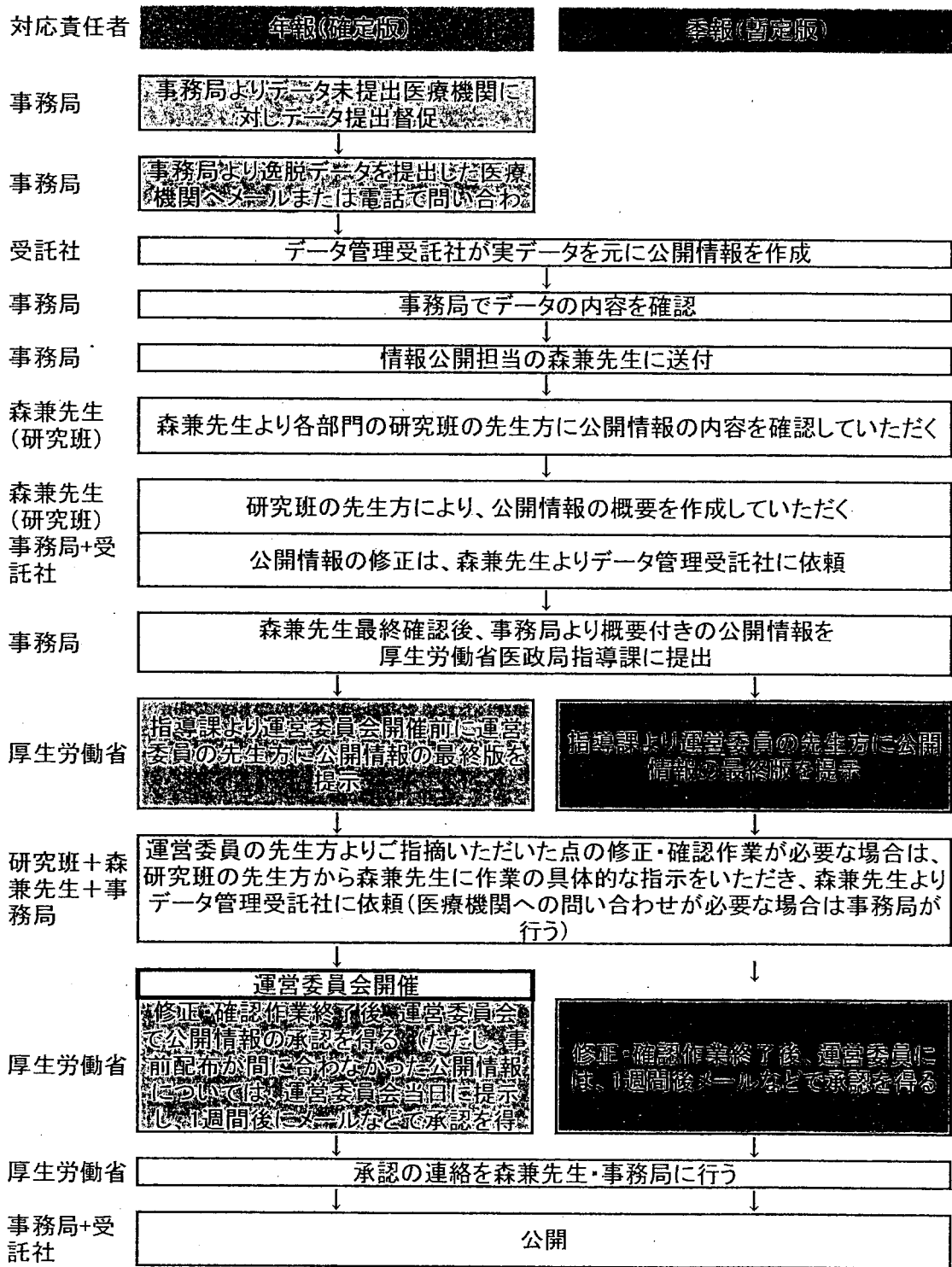
(調査票情報の提供を受けられることができる統計の作成等)

第九条 法第三十三条第二号 の総務省令で定める統計の作成等は、次に掲げる統計の作成等であつて、調査票情報を適正に管理するために必要な措置が講じられているものとする。

- 一 行政機関等又は前条に規定する者(次号及び第十五条第三号において「公的機関」という。)が、これらの者以外の者に委託し、又はこれらの者以外の者と共同して行う調査研究に係る統計の作成等
- 二 その実施に要する費用の全部又は一部を公的機関が公募の方法により補助する調査研究に係る統計の作成等
- 三 行政機関の長又は地方公共団体の長その他の執行機関が、その政策の企画、立案、実施又は評価に有用であると認める統計の作成等その他特別な事由があると認める統計の作成等



公開情報作成から承認まで(旧)



精度管理のための問い合わせ基準

2008年SSI部門データ問い合わせ基準	問い合わせ結果(件数)		
	正しいデータを送信	誤ったデータを送信	不明
全医療機関SSI発生率10%を超える手術手技で、 20例以上の手術件数があるにもかかわらずSSI発生ゼロ			
REC(直腸手術) 18%	3	0	0
ESOP(食道手術) 18%	0	0	0
BILI(胆管胆道、肝臓、膵臓手術) 16%	1	0	2
COLN(結腸手術) 16%	2	5	1
SB(小腸手術) 15%	3	0	0
全医療機関SSI発生率5%を超える手術手技で、 40例以上の手術件数があるにもかかわらずSSI発生ゼロ			
XLAP(開腹術) 10%	0	0	0
OGIT(その他、消化器系) 9%	0	0	0
AMP(四肢切断術) 9%	0	0	0
GAST(胃手術) 9%	1	1	1
APPY(虫垂切除術) 7%	1	1	0
SSI症例(6例以上)のうち、 検体分離菌情報がないものが80%以上を占める	3	5	0

データ修正進捗

進捗	件数
正しいデータ修正	8件
データ未修正	2件
修正不可能	1件
内容不明	2件
合計	13件

※医療機関数

2008年ICU部門データ問い合わせ基準	問い合わせ結果(件数)		
	正しいデータを送信	誤ったデータを送信	不明
解析対象患者数/全入室患者数>0.9	0	6	0
人工呼吸器関連肺炎発生率>20%	1	0	0
カテーテル感染症発生率>10%	0	1	0
尿路感染症発生率>10%	0	1	0
すべての感染症発症患者数ゼロ	12	4	5

データ修正進捗

進捗	件数
正しいデータ修正	5件
データ未修正	2件
修正不可能	3件
内容不明	5件
合計	15件

※医療機関数

第 2 回院内感染対策サーベイランス運営委員会における大久保委員の質問に対する NICU 部門研究グループ回答

[大久保委員質問要旨]

アメリカの NHSN では新生児の体重を 5 種類 (~750g, 751~1000g, 1001~1500g, 1501~2500g, 2500g~) に分類しているのに対して NICU 部門では 3 種類 (~999g, 1000~1499g, 1500g~) に分類している。これでは国際的な比較が難しくなるので NHSN の体重別分類に変更したほうがよいのではないかと？

[NICU 部門研究班回答]

NICU 部門研究グループでは、2007 年 7 月のサーベイランスシステムの更新に際し、NHSN の体重別分類の導入を検討いたしました。しかし現時点では NICU 部門は参加医療機関数が少ないため 250g 階級で出生時体重を区分した場合に症例数の非常に少ない階級が生じることが明らかになりました。このことに由来する統計学的方法論の問題を回避するためある程度の症例数が確保できる 500g 階級で区分し、解析を現在実施しております(参考資料 表 1~4)。

本サーベイランスが継続され、より多くのサーベイランスデータが蓄積されることで NHSN と同様の 250g 階級で出生時体重を区分しても統計学的に妥当な解析が実施可能となると考えておりこの点につきましては今後の検討課題であると考えております。

また 2500g 以上の体重群も、感染症の多くは院外出生の感染症例であることが多く院内感染症との区別が必要です、NICU 入院児としては外科症例が多くなります。むしろ SSI との関連が問題になりますので、今後は統計処理上の事も考えて手術関連の感染症(おそらく成人の SSI とは内容が異なる形になると思われます)を診断項目に追加することも考慮に入れた入力/報告形態を、次回の改訂時に体重群と一緒に改訂してはどうかと考えております。

(文責：北島博之)

(参考資料)

2007 年 NICU 部門年報

44 の医療機関からデータが提出された。

表 1 体重別入院患児数・
感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症 患児数	感染症 発生率
～999g	335	111	33.1%
1,000g～1,499g	456	36	7.9%
1,500g～	4887	199	4.1%
合計	5678	346	6.1%